

「城北川区民意識アンケート調査」 事業報告書

平成19（2007）年2月

大阪市城東区役所

【 目 次 】

1 . 城北川区民意識アンケート調査 調査の目的と手法	1
2 . 本アンケート調査の標本構成	2
3 . アンケート調査結果	3
4 . アンケート調査結果のまとめ	46

(資料)

アンケート依頼文

アンケート調査票

アンケート資料

はじめに

城東区は、現在、城北川・寝屋川・第2寝屋川・平野川・平野川分水路の5河川が、区域を東西南北に貫流し、昔から河川の遷り変りとともに歩んできた歴史を持つ「まち」です。

現在の河川沿いは住宅地として発展を続けていますが、その護岸は水害を防ぐための高いコンクリート壁に覆われ、まちの中のアメニティ（注1）を阻害する要因のひとつとなっています。

そのような中であって、城北川は、昭和62年度に建設省により遊歩道が美しく整備され、区内を南北に走る約2キロの景観は、四季折々に移ろう非常に美しいものとなっています。

残念ながらこの景観は、遊歩道完成当初は注目されたものの、現在では一部の区民の散歩道などでしか利用されていないのが実情です。

こうした中、「城東区長改革マニフェスト（要約版）」でも示していますように、だれもが、いつでも、安全に、気持ちよく利用できる川づくりをすすめ、城北川を区内の貴重なアメニティ資源としてまちづくりに活用し、「城東区の誇れるランドマーク（注2）」として位置づけていくことにしました。

そこで、城北川をアピールするプロジェクトとして、平成18年10月7日に「城北川魚類生息状況調査」を実施しました。

これは、城北川が区内河川の中で最も水質が良いと言われていながら、これまで魚類生息状況と水質について調査されたことがなく不明であったことから、水環境がどの程度のものであるか調査・公表し、「美しい城北川」を広くアピールするため実施したものです。

その結果、「市内河川における比較的きれいな水質の指標種である『コウライモロコ』が6個体、『ハス』が9個体採集されたことから、魚類の生息状況から評価してみても、比較的良好的な水質の河川」であり、昔の城北川の「汚い川」というイメージとは異なり、「小魚が生息している比較的きれいな水質の川」であることが証明され、マスコミからも取材を受けたところです。

この「城北川区民意識アンケート調査」は、区民の皆さんの「城北川」に対する意識やニーズを把握し、今後のまちづくりに活用していくために実施いたしました。

この調査結果を貴重なまちづくり資料として活用し、区役所と区民が協働して、内外に「城東区のランドマークは城北川」と情報発信できるようなとりくみを進めてまいりたいと考えています。

平成19年2月

大阪市城東区役所

注1：アメニティ...都市計画で、建物・風景などの快適性

注2：ランドマーク...その土地の目印や象徴になるような建造物

1 . 城北川区民意識アンケート調査 調査の目的と手法

(1) 調査の目的

「城北川区民意識アンケート調査」(以下、本アンケート調査)は、城北川を区内の貴重なアメニティ資源としてまちづくりに活用し、「城東区の誇れるランドマーク」として位置づけていくための「城北川アピールプロジェクト」の取組みの一環として実施した。

「城北川アピールプロジェクト」は、平成18年度からの3年をかけて取組む事業であり、平成18年度を、城北川に関する調査を実施してニーズ把握や人材の掘り起こしを行う年度、平成19年度を、フェスティバル実施に向けたパイロット事業を実施する年度とし、平成20年度の区民と区役所とが協働して「ランドマークは城北川」という情報発信ができるような区民フェスティバルの開催へと結び付けていくものである。

以上の目的に従い、本アンケート調査における設問設計は、以下のような考え方となっている。

- ・ 設問1～3...城北川および城北川遊歩道の現状について
- ・ 設問4・5...「城北川アピールプロジェクト 城北川魚類棲息状況調査」
- ・ 設問6...城北川および城北川遊歩道の将来像について
- ・ 設問7～11...「城北川アピールプロジェクト フェスティバル開催」について
- ・ 設問12...「城東区長マニフェスト」の認知度

(2) 調査の対象と方法

城北川沿いに暮らす区民を対象とするため、北は旭区との区境(国道163号)、東は鶴見区との区境(国道479号)、南は寝屋川、西は国道1号に囲まれた、古市、関目、今福東、今福西、今福南の5町を調査対象エリアとし、上記5町に居住する20歳以上(平成18年12月31日時点)の区民1,000名を、住民基本台帳より無作為に抽出した。

調査方法は、郵送によるアンケート配布を行い、回答記入後、郵送により返送してもらう方法で回収を行った。

- ・ アンケート配布期間：平成19年1月26日～2月5日
(回答回収締切日：平成19年2月16日)
- ・ 配布物
 - アンケート調査票
 - (別紙)参考資料「城北川魚類生態調査」実施結果

今回のアンケート調査票の送付にあたって、「城北川魚類棲息状況調査」の要約版を添付した。これはアンケート設問の参考資料とすることに加えて、城北川の取組みへの住民の関心を高めることを狙いとしている。

(3) アンケート回収状況

郵送による配布を行った1,000票のうち、宛先不明、転居先不明により未配達となった11通を除く、実質配布票数は989票、有効回収票数は312票で、回収率は31.5%であった。

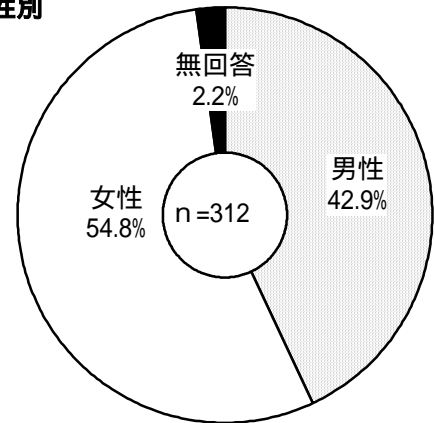
2. 本アンケート調査の標本構成

本アンケートの標本構成は以下の通りである。

性別

本アンケートの回答者は、【女性】が54.8%、【男性】が42.9%であり、女性の割合が高くなっている。

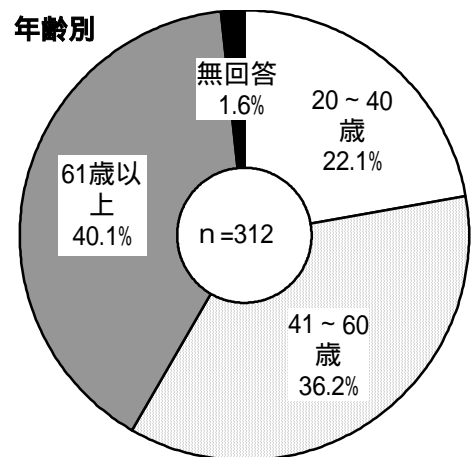
性別



年齢別

年齢別では【61歳以上】が40.1%、【41～60歳】が36.2%、【20～40歳】が22.1%であった。

年齢別

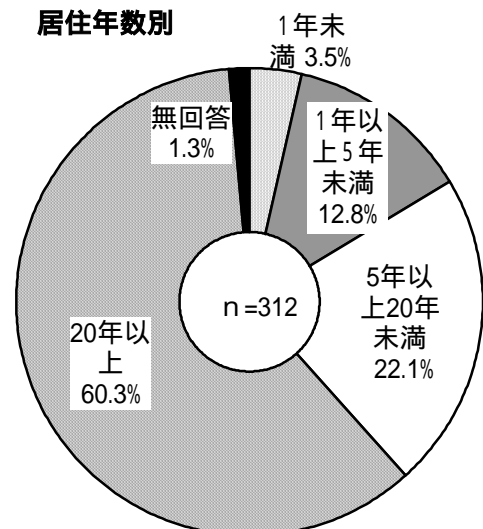


居住年数別

居住年数で見ると、【20年以上】が60.3%と過半数を占めている。以下、昇順に【5年以上20年未満】が22.1%、【1年以上5年未満】12.8%、【1年未満】3.5%であった。

なお、【1年未満】に関しては標本数が少なかったため、クロス分析にあたっては分析対象から除外する。

居住年数別



3. アンケート調査結果

問1) 城北川の利用頻度

問1 城北川は、昭和62年に「ふるさとの川モデル河川」の指定を受け、遊歩道の整備や子どもたちが安全に楽しく遊べる空間づくりを行ってきました。

あなたはこの城北川沿いにどの程度訪れますか。最も近いものを1つ選んでください。

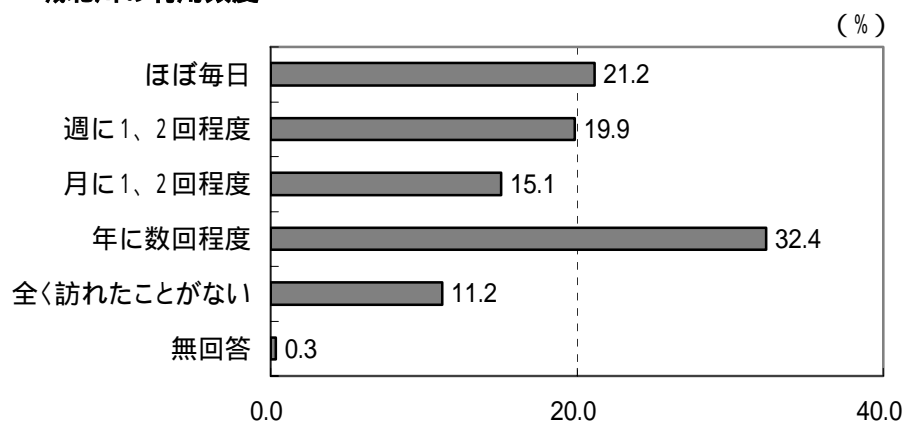
- | | |
|---------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に1、2回程度 |
| 3. 月に1、2回程度 | 4. 年に数回程度 |
| 5. 全く訪れたことがない | |

【調査結果】

全体

- ・ 城北川の利用頻度は【年に数回程度】(32.4%)が最も多く、以下【ほぼ毎日】(21.2%)、【週に1、2回程度】(19.9%)、【月に1、2回程度】(15.1%)、【全く訪れたことがない】(11.2%)であった。
- ・ 【ほぼ毎日】・【週に1、2回程度】をあわせると、全体の約4割を占めており、さらに【月に1、2回程度】の利用を含めると半数を超え(計56.2%)、周辺住民の多くが日常的に利用している川といえることができる。

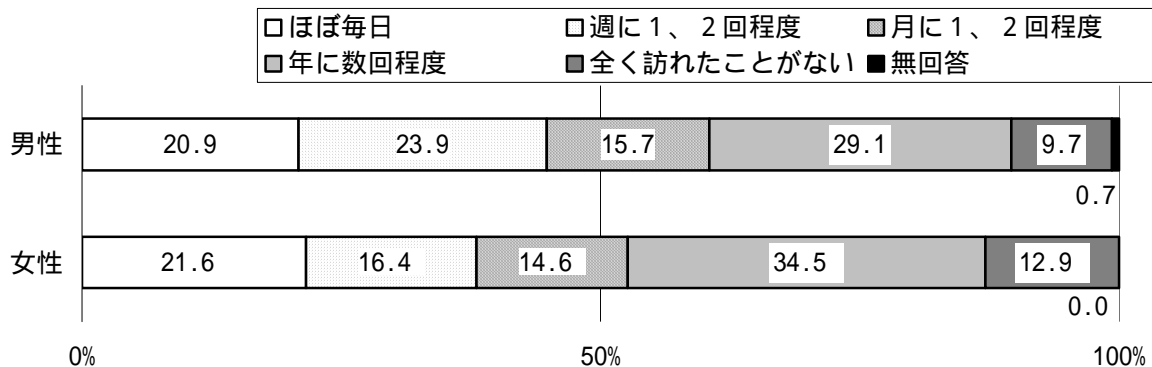
城北川の利用頻度



性別

- ・【男性】(29.1%)・【女性】(34.5%)とも【年に数回程度】が多い。
- ・【ほぼ毎日】・【週に1、2回程度】・【月に1、2回程度】の合計を日常的利用としてみると、【男性】が60.5%、【女性】が52.6%であり、【男性】の利用の方が幾分(7.9%)多い。

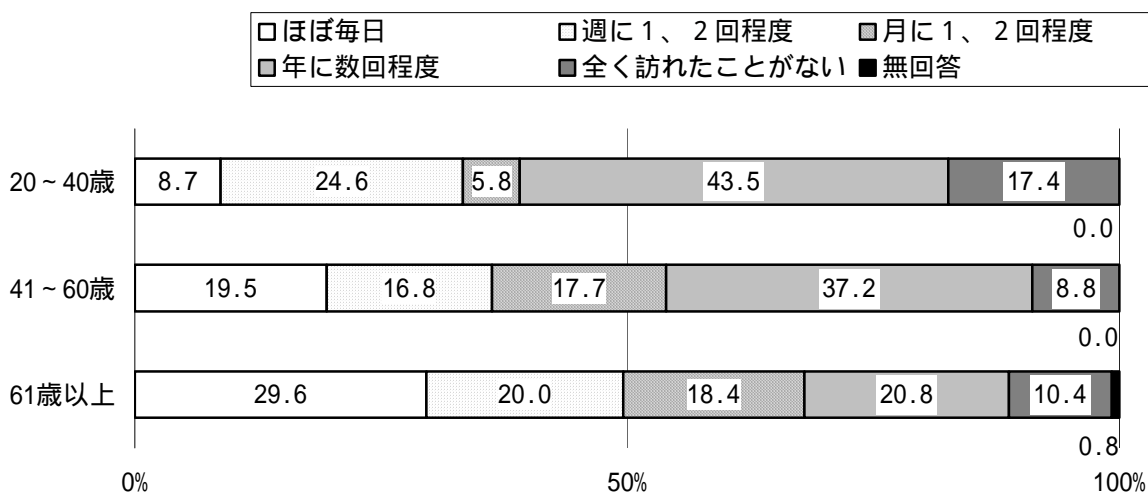
城北川沿いへの訪問頻度×性別



年齢別

- ・【20～40歳】では【年に数回程度】が43.5%を占め、【全く訪れたことがない】(17.4%)とあわせると6割となり、日常的な利用が少ないことがわかる。
- ・【41～60歳】では日常的な利用がなされており、【ほぼ毎日】(19.5%)・【週に1、2回程度】(16.8%)・【月に1、2回程度】(17.7%)を合わせて全体の半数を超えている(計54%)。
- ・【61歳以上】においては、【ほぼ毎日】(29.6%)の利用が約3割程度あり、【週に1、2回程度】(20.0%)・【月に1、2回程度】(18.4%)を合わせると7割近く(68%)が、日常的に城北川を利用している。

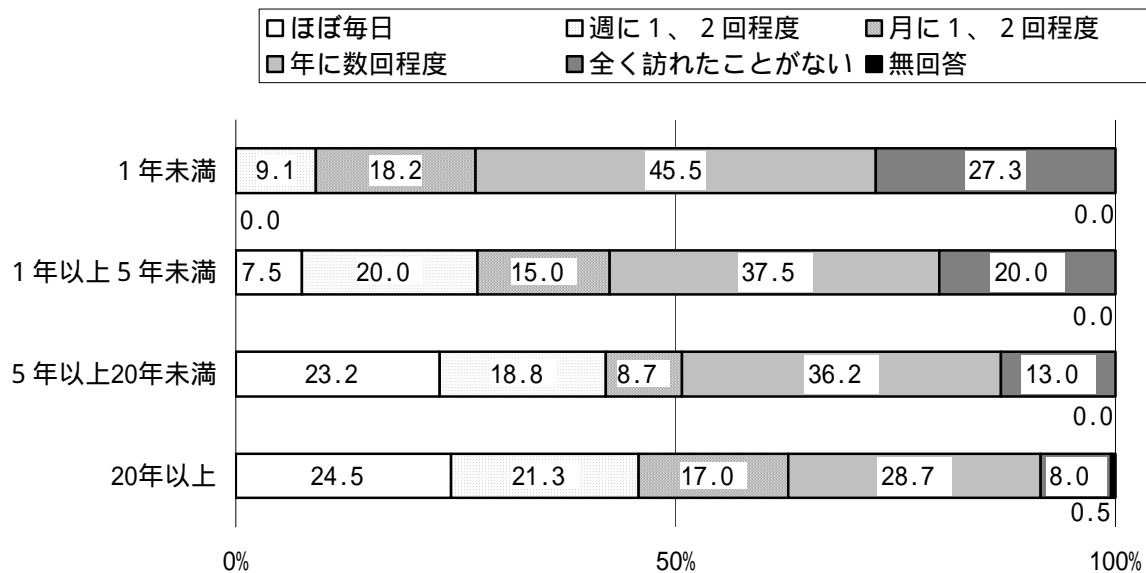
城北川沿いへの訪問頻度×年齢別



居住年数別

- ・ 居住年数が高くなるにつれて日常的な利用頻度が高くなる傾向にある。
- ・ 特に、【1年以上5年未満】(7.5%)と【5年以上20年未満】(23.2%)、【20年以上】(24.5%)の間では、【ほぼ毎日】の利用が3倍程度高い。

城北川沿いへの訪問頻度×居住年数別



問2) 城北川および城北川遊歩道の利用目的

問2 あなたは、どのようなことを目的に城北川を訪れていますか。最も近いものを2つまで選んでください。

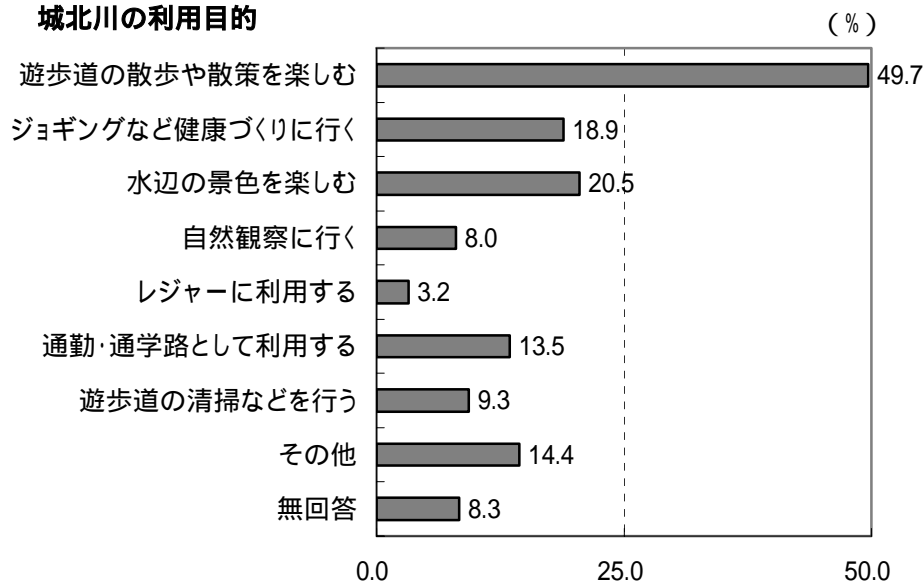
- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 遊歩道の散歩や散策を楽しむ | 2. ジョギングなど健康づくりに行く |
| 3. 水辺の景色を楽しむ | 4. 自然観察に行く |
| 5. レジャーに利用する | 6. 通勤・通学路として利用する |
| 7. 遊歩道の清掃などを行う | 8. その他() |

【調査結果】

全体

- ・ 城北川および城北川遊歩道の利用目的は、【遊歩道の散歩や散策を楽しむ】(49.7%)が最も多く、半数近くを占める。次いで、【水辺の景色を楽しむ】(20.5%)、【ジョギングなど健康づくりに行く】(18.9%)が2割程度あり、【その他】(14.4%)、【通勤・通学路として利用する】(13.5%)、【遊歩道の清掃などを行う】(9.3%)、【自然観察に行く】(8.0%)、【レジャーに利用する】(3.2%)と続く。
- ・ 【遊歩道の散歩や散策を楽しむ】・【水辺の景色を楽しむ】などの川辺環境を“ゆったりと楽しむ”ような回答が多く、城北川が周辺区民にとってアメニティ空間として利用されていることがわかる。
- ・ 【ジョギングなど健康づくりに行く】という健康を意識した回答も比較的多いが、自然観察は少なく、レジャー利用は殆どない。
- ・ また【遊歩道の清掃などを行う】活動も1割程度の住民が取り組んでいる。

城北川の利用目的



性別

- ・【男性】・【女性】とも【遊歩道の散歩や散策を楽しむ】・【水辺の景色を楽しむ】・【ジョギングなど健康づくりに行く】が多く、この3つの回答すべて【男性】の方が多くなっている。
- ・【遊歩道の清掃活動などを行う】は【女性】が【男性】の約2倍取組んでいる。

城北川の訪問目的×性別

(%)

	遊歩道の散歩や散策を楽しむ	ジョギングなど健康づくりに行く	水辺の景色を楽しむ	自然観察に行く	レジャーに利用する	通勤・通学路として利用する	遊歩道の清掃などを行う	その他	無回答
男性	56.7	23.9	24.6	8.2	3.0	11.2	6.0	7.5	9.0
女性	43.9	14.6	17.5	8.2	3.5	15.2	12.3	19.9	7.6

1位 2位 3位

年齢別

- ・【遊歩道の散歩や散策を楽しむ】はどの年齢層でも最も高いが、年齢が高くなるにつれて高くなっている。【61歳以上】(58.4%)では約6割を占めている。
- ・2番目に多い利用目的は年齢層において分かれ、【20~40歳】では【通勤・通学路として利用する】(18.8%)【41~60歳】では【水辺の景色を楽しむ】(24.8%)【61歳以上】では【ジョギングなど健康づくりに行く】(27.2%)となっている。
- ・【20~40歳】(18.8%)、【41~60歳】(17.7%)は遊歩道を【通勤・通学路として利用する】ことも多い。
- ・【61歳以上】は散歩・散策、ジョギングの2項目が他の年齢層と比べて格段に高く、また、【遊歩道の清掃活動】(16.0%)に積極的に取組んでいる。

城北川の訪問目的×年齢別

(%)

	遊歩道の散歩や散策を楽しむ	ジョギングなど健康づくりに行く	水辺の景色を楽しむ	自然観察に行く	レジャーに利用する	通勤・通学路として利用する	遊歩道の清掃などを行う	その他	無回答
20~40歳	34.8	10.1	14.5	5.8	5.8	18.8	1.4	17.4	14.5
41~60歳	47.8	15.0	24.8	8.0	2.7	17.7	7.1	15.9	6.2
61歳以上	58.4	27.2	20.0	9.6	2.4	7.2	16.0	12.0	6.4

1位 2位 3位

居住年齢別

城北川の訪問目的×居住年数別

(%)

	遊歩道の散歩や散策を楽しむ	ジョギングなど健康づくりに行く	水辺の景色を楽しむ	自然観察に行く	レジャーに利用する	通勤・通学路として利用する	遊歩道の清掃などを行う	その他	無回答
1年未満	45.5	9.1	45.5	18.2	0.0	9.1	0.0	0.0	27.3
1年以上 5年未満	50.0	15.0	22.5	2.5	0.0	15.0	2.5	25.0	7.5
5年以上 20年未満	39.1	11.6	17.4	13.0	4.3	21.7	8.7	10.1	14.5
20年以上	54.3	22.3	20.2	6.4	3.2	10.6	11.2	14.9	4.8

1位 2位 3位

問3) 城北川のイメージ

問3 あなたは、城北川についてどのように感じていますか。以下のイメージについて、当てはまるものを2つまで選んでください。

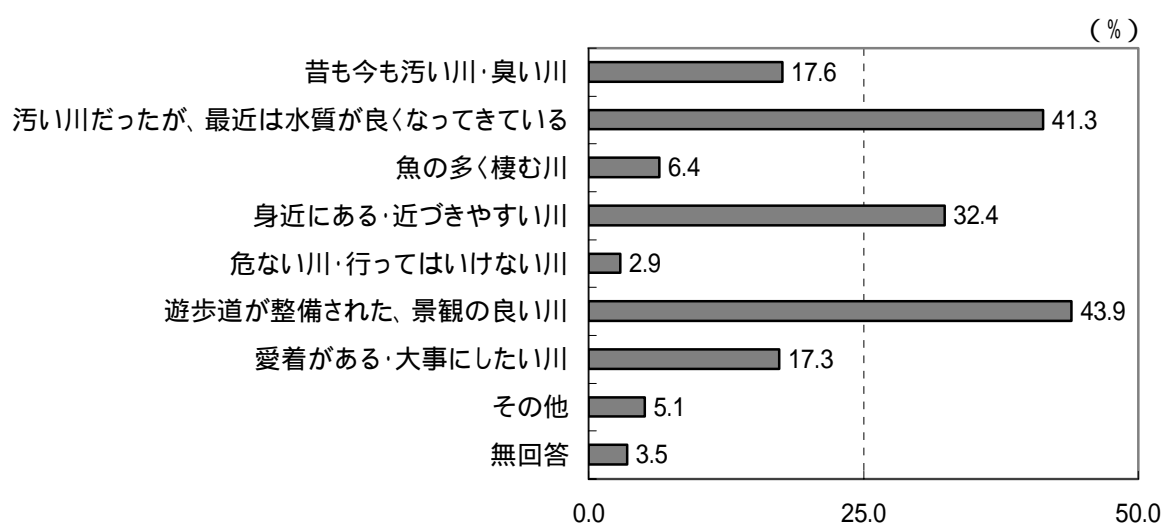
1. 昔も今も汚い川・臭い川
2. 汚い川だったが、最近水質が良くなってきている川
3. 魚の多く棲む川
4. 身近にある・近づきやすい川
5. 危ない川・行ってはいけない川
6. 遊歩道が整備された、景観の良い川
7. 愛着がある・大事にしたい川
8. その他()

【調査結果】

全体

- ・ 城北川のイメージとしては【遊歩道が整備された、景観の良い川】(43.9%)、【汚い川だったが、水質が良くなってきている】(41.3%)、【身近にある・近づきやすい川】(32.4%)が3～4割台の高い割合で回答されている。次いで、【今も昔も汚い川・臭い川】(17.6%)、【愛着がある・大事にしたい川】(17.3%)、【魚の多く棲む川】(6.4%)、【その他】(5.1%)、【危ない川・行ってはいけない川】(2.9%)と続く。
- ・ 全体的に遊歩道の整備や親水性、川の水質改善に対する評価とそのイメージが高い傾向となっており、区民に水辺環境の改善状況が認知されていると考えられる。
- ・ また【身近にある・近づきやすい川】(32.4%)・【愛着がある・大事にしたい川】(17.3%)等も含め、城北川のプラスイメージの方が【今も昔も汚い川・臭い川】(17.6%)、【危ない川・行ってはいけない川】(2.9%)のマイナスイメージを大きく上回っている。

城北川のイメージ



性別

- ・ 男女を比較すると、【女性】では【遊歩道が整備された、景観の良い川】(50.3%)が最も高いことに対し、一方、【男性】では【汚い川だったが、水質がよくなってきている】(46.3%)が最も高い。また【魚の多く棲む川】項目も【女性】(4.7%)と比べて【男性】(8.2%)のほうが高い。
- ・ 【女性】では景観やアメニティの変化に対するイメージが高いのに対し、【男性】は川の水質変化、河川環境に対するイメージが高い傾向にある。

城北川のイメージ×性別

(%)

	昔も今も汚い川・臭い川	汚い川だったが、水質が良くなってきている	魚の多く棲む川	身近にある・近づきやすい川	危ない川・行ってはいけない川	遊歩道が整備された、景観の良い川	愛着がある・大事にした川	その他	無回答
男性	20.9	46.3	8.2	28.4	2.2	37.3	17.9	6.7	1.5
女性	15.2	36.8	4.7	36.3	3.5	50.3	17.0	4.1	4.7



年齢別

- ・ 【20～40歳】では【昔も今も汚い川・臭い川】(36.2%)、【危ない川・行ってはいけない川】(7.2%)が他の年齢層より非常に高く、若年層で城北川に対するマイナスイメージが高い。
- ・ 【41～60歳】、【61歳以上】では【遊歩道が整備された、景観の良い川】、【汚い川だったが、水質が良くなってきている】がそれぞれ1・2番目に高く、改善された河川環境に対するイメージが高い。

城北川のイメージ×年齢別

(%)

	昔も今も汚い川・臭い川	汚い川だったが、水質が良くなってきている	魚の多く棲む川	身近にある・近づきやすい川	危ない川・行ってはいけない川	遊歩道が整備された、景観の良い川	愛着がある・大事にした川	その他	無回答
20～40歳	36.2	17.4	5.8	26.1	7.2	24.6	10.1	10.1	8.7
41～60歳	13.3	46.9	4.4	35.4	1.8	54.0	15.9	4.4	0.9
61歳以上	11.2	49.6	8.0	32.8	1.6	47.2	22.4	3.2	2.4



居住年数別

- ・ 居住年数が【1年以上5年未満】、【5年以上20年未満】では【遊歩道が整備された、景観の良い川】が最も高く、次いで【身近にある・近づきやすい川】が高い割合を占めている。
- ・ 居住年数が【20年以上】になると、【汚い川だったが、水質が良くなってきている】(53.7%)の割合が最も高く、次いで【遊歩道が整備された、景観の良い川】(44.1%)が続く。居住年数の長い住民は川の変化をともに見てきた世代でもあり、城北川に対する愛着も高い傾向にある。

城北川のイメージ×居住年数別

(%)

	昔も今も汚い川・臭い川	汚い川だったが、水質が良くなってきている	魚の多く棲む川	身近にある・近づきやすい川	危ない川・行ってはいけない川	遊歩道が整備された、景観の良い川	愛着がある・大事にしたい川	その他	無回答
1年未満	18.2	18.2	9.1	18.2	0.0	54.5	9.1	9.1	18.2
1年以上5年未満	22.5	22.5	0.0	27.5	7.5	47.5	15.0	10.0	2.5
5年以上20年未満	27.5	24.6	7.2	37.7	2.9	40.6	11.6	7.2	5.8
20年以上	12.8	53.7	6.4	33.0	2.1	44.1	20.7	2.7	1.6

1位 2位 3位

問4)「城北川魚類生息状況調査」の認知度

問4 城東区では、「城東区の誇れるランドマーク(目標物)づくり」をテーマに、城北川を活用したまちづくりについて検討しています。今年の10月7日(土)には、城北川をアピールする取組みとして「城北川魚類生息状況調査」を近隣6連合町会および小学校の協力で実施しました(別紙「参考資料」参照)。

この取組みについて、ご存知でしたか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. 調査を実施することも、調査結果も知っていた
2. 調査を実施したことは知っていたが、結果は知らなかった
3. 調査結果は、見聞きしたことがある
4. 調査を実施したことも結果も知らなかった

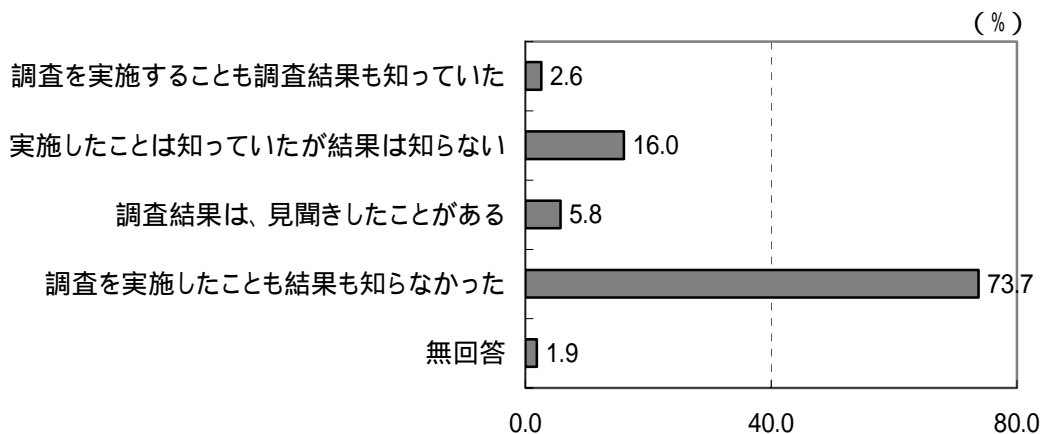


【調査結果】

全体

- ・平成18年10月に行った「城北川魚類生息状況調査」に関しては、【調査を実施したことも結果も知らなかった】(73.7%)が最も多く、「城北川魚類生息状況調査」の認知度はあまり高くない。次いで、【調査を実施したことは知っていたが、結果は知らなかった】(16.0%)、【調査結果は、見聞きしたことがある】(5.8%)、【調査を実施することも、調査結果も知っていた】(2.6%)と続き、調査を知っていた住民の合計は24.4%(約1/4)である。

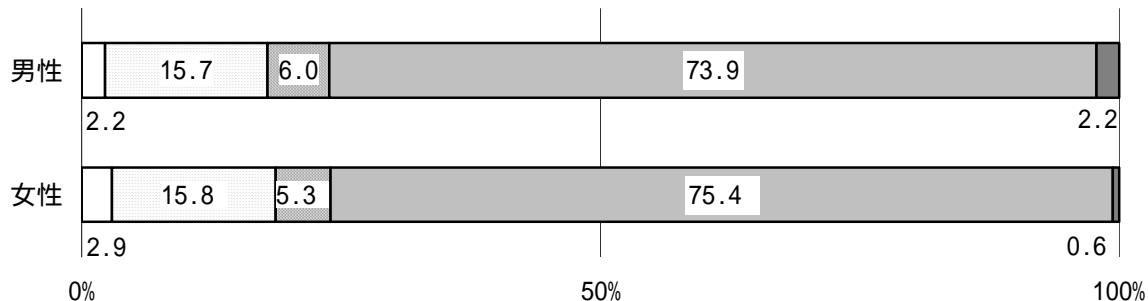
「城北川魚類生息状況調査」の認知度



性別

「城北川魚類生息状況調査」取組みについての認知×性別

調査を実施することも調査結果も知っていた 実施したことは知っていたが結果は知らない
 調査結果は、見聞きしたことがある 調査を実施したことも結果も知らなかった
 無回答

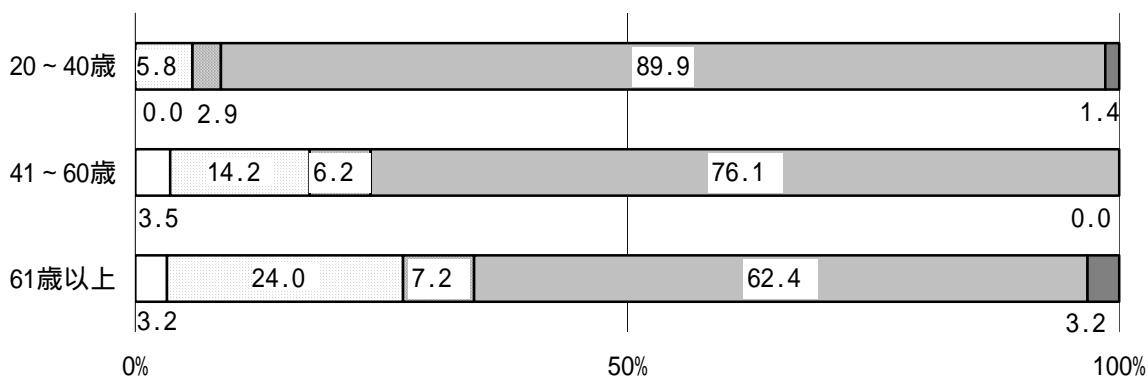


年齢別

- どの年齢別層においても「城北川魚類生息状況調査」の認知度は低い。特に年齢層が低いほど認知度が低く、年齢別層が高くなるにつれて【調査を実施したことは知っていたが、結果は知らなかった】が高い。

「城北川魚類生息状況調査」取組みについての認知×年齢別

調査を実施することも調査結果も知っていた 実施したことは知っていたが結果は知らない
 調査結果は、見聞きしたことがある 調査を実施したことも結果も知らなかった
 無回答

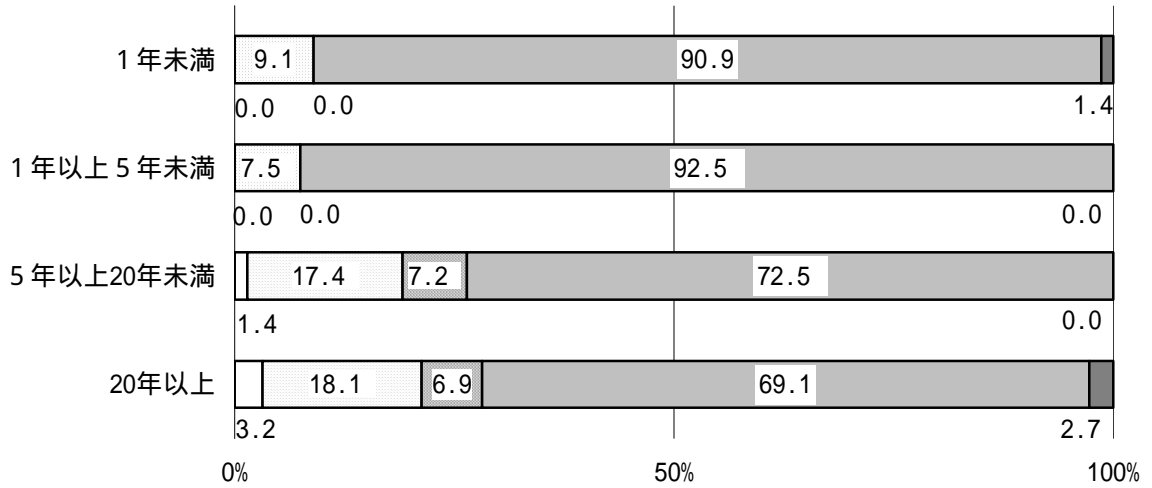


居住年数別

- ・ 居住年数が高くなるにつれて【調査を実施したことは知っていたが、結果は知らなかった】が高い。

「城北川魚類生息状況調査」取組みについての認知×居住年数別

調査を実施することも調査結果も知っていた 実施したことは知っていたが結果は知らない
 調査結果は、見聞きしたことがある 調査を実施したことも結果も知らなかった
 無回答



問5)「城北川魚類生息状況調査」の結果について

問5 「城北川魚類生息状況調査」の調査結果(別紙参照)について、どのように感じましたか。当てはまるものを2つまで選んでください。

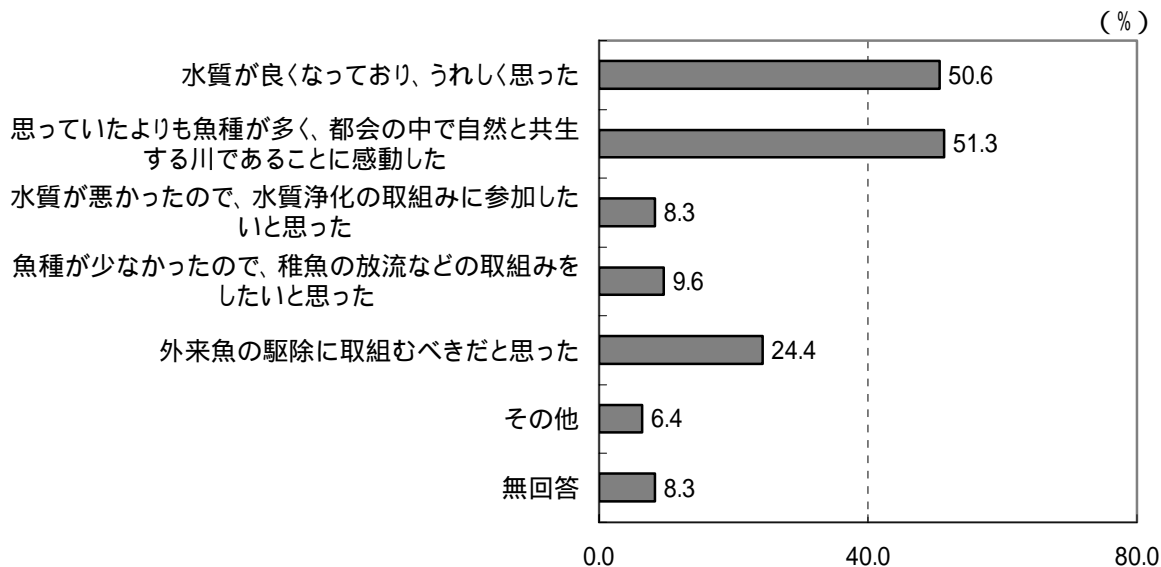
1. 水質が良くなっており、うれしく思った
2. 思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した
3. 水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った
4. 魚種が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った
5. 外来魚の駆除に取組むべきだと思った
6. その他()

【調査結果】

全体

- ・ 調査結果については、【思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した】(51.3%)、【水質が良くなっており、うれしく思った】(50.6%)と、河川環境の改善に対して評価する回答が各半数を超えている。
- ・ 次いで【外来魚の駆除に取組むべきだと思った】(24.4%)という回答があり、「城北川魚類生息状況調査」結果が河川環境に対して見直すきっかけになったと思われる。
- ・ 【魚種が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った】(9.6%)、【水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った】(8.3%)など、河川環境の保全に対する自発的な活動への意欲をうかがえる回答も各1割程度ある。

「城北川魚類生息状況調査」の調査結果について

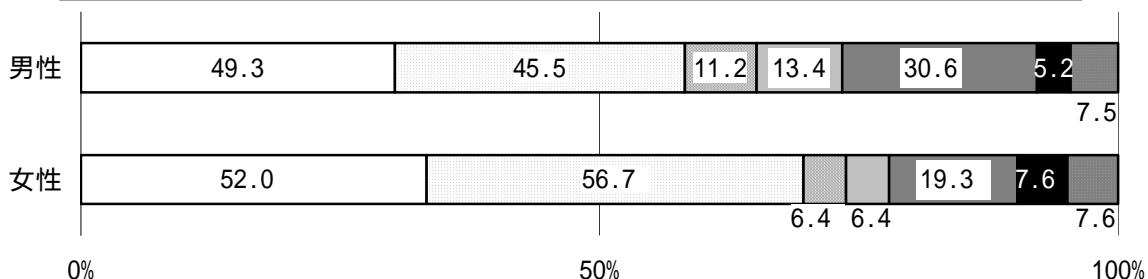


性別

- ・【男性】では【思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した】(49.3%)、【水質が良くなっており、うれしく思った】(45.5%)の順に高く、【女性】においても【水質が良くなっており、うれしく思った】(56.7%)、【思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した】(52.0%)の順に高く、河川環境の変化に対して高く評価されている。
- ・【男性】では河川環境の保全に対する自発的な活動の意欲が【女性】の2倍以上ある。

「城北川魚類生息状況調査」の調査結果について×性別

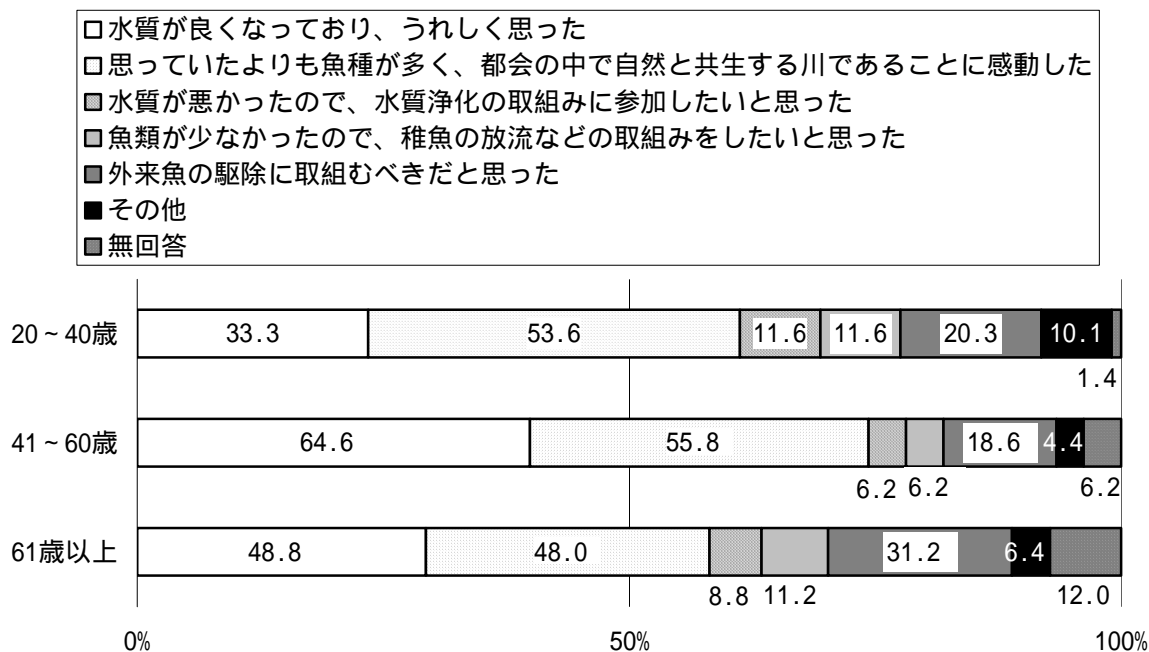
- 水質が良くなっており、うれしく思った
- 思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した
- 水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った
- 魚類が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った
- 外来魚の駆除に取り組むべきだと思った
- その他
- 無回答



年齢別

- ・ 全年齢別層において【思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した】(20～40歳：33.3%、41～60歳：64.6%、61歳：48.8%)【水質が良くなっており、うれしく思った】(20～40歳：53.6%、41～60歳：55.8%、61歳：48.0%)がそれぞれ高く、【40～60歳】ではこの2項目が他の年齢層よりも高い。
- ・ 【20～40歳】、【61歳以上】は外来魚の駆除、水質浄化、稚魚の放流などの取組みに対して積極性をうかがうことができる。

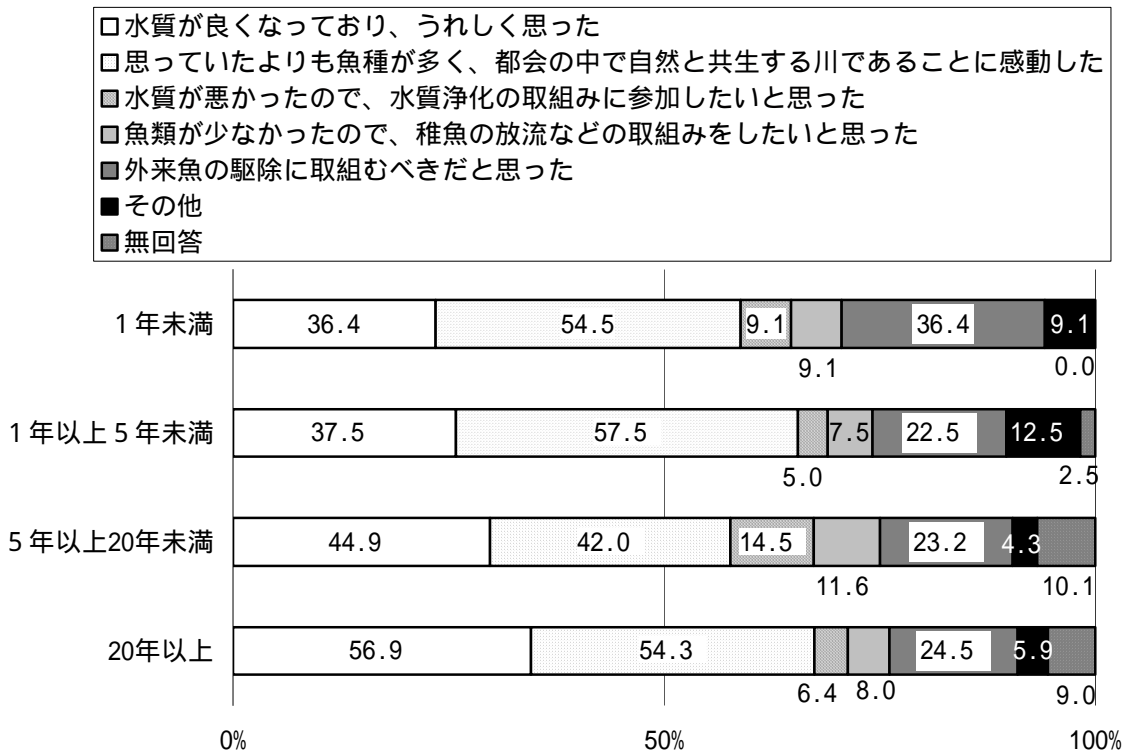
「城北川魚類生息状況調査」の調査結果について×年齢別



居住年数別

- ・ 居住年数が【5年以上20年未満】【20年以上】では【水質がよくなっており、うれしく思った】が最も高い。これは問3での回答で見られたように、日常的に感じている水質の変化のイメージが「城北川魚類生息状況調査」結果によって裏づけされたことになった。

「城北川魚類生息状況調査」の調査結果について×居住年数別



問6) 城北川・城北川遊歩道に望む将来像

問6 あなたは城北川および城北川遊歩道の将来像について、どのような姿を望みますか。

3つまで選んでください。

1. 自然に近い川
2. 多様な動植物が生息・生育する川
3. 野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川
4. 景観が美しい川
5. ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川
6. 散歩やジョギングなど、健康づくりができる川
7. 子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川
8. 洪水のない川
9. 釣りが楽しめる川
10. ボート遊びや河原での遊びができる川
11. 区外からも観光客が訪れる川
12. イベントやレクリエーションが活発に行われる川
13. その他()

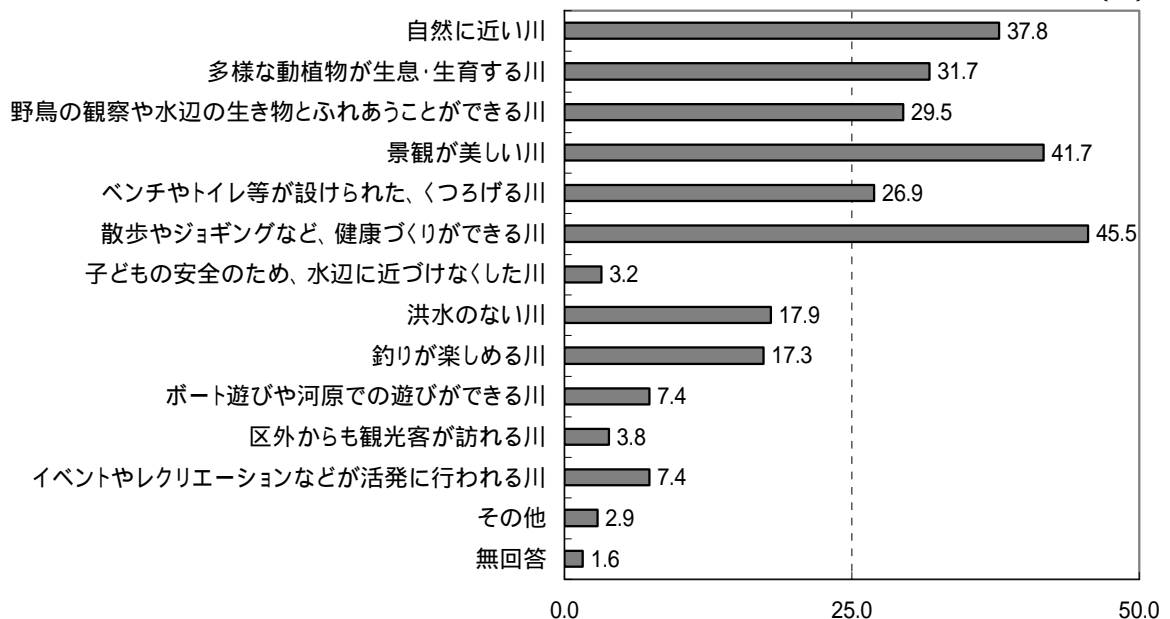
【調査結果】

全体

- ・ 【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(45.5%)、【景観が美しい川】(41.7%)が4割を超えており、次いで【自然に近い川】(37.8%)、【多様な動植物が生息・生育する川】(31.7%)、【水辺の生き物とふれあうことができる川】(29.5%)、【ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川】(26.9%)と20~30%台が強く、全般的にアメニティと自然に関する項目が高い。
- ・ 【子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川】(3.2%)は最も少なく、子どもでも安心して川と良好な関係が築くことができるよう、望まれていることがわかる。

城北川・城北川遊歩道に望む将来像

(%)



性別

- ・【男性】は【自然に近い川】(43.3%)が最も高く、次いで【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(38.8%)があり、【多様な動植物が生息・生育する川】(38.1%)、【野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川】(29.9%)と、自然系の項目が続き、【男性】は全般的に将来性として自然を重視していることがわかる。
- ・【女性】は【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(50.3%)が最も高く、次いで【景観が美しい川】(46.8%)、【自然に近い川】(33.9%)となっており、都市アメニティに関する項目が高い。
- ・【釣りが楽しめる川】(21.6%)、【ボート遊びや河原での遊びができる川】(9.0%)といった川の上で直接楽しむことに関する項目は【男性】の方が高い。

城北川・城北川遊歩道の望む将来像×性別

(%)

	自然に近い川	多様な動植物が生息・生育する川	野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川	景観が美しい川	ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川	散歩やジョギングなど、健康づくりができる川	子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川
男性	43.3	38.1	29.9	35.8	27.6	38.8	4.5
女性	33.9	28.1	29.8	46.8	26.3	50.3	1.8
	洪水のない川	釣りが楽しめる川	ボート遊びや河原での遊びができる川	区外からも観光客が訪れる川	イベントやレクリエーションなどが活発に行われる川	その他	無回答
男性	12.7	21.6	9.0	3.7	9.7	3.7	0.7
女性	22.8	14.0	6.4	4.1	5.8	2.3	1.8

1位 2位 3位

年齢別

- ・【20～40歳】では【景観が美しい川】(46.4%)が最も高く、次いで【多様な動植物が生息・生育する川】(39.1%)、【自然に近い川】(37.7%)、【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(34.8%)となっている。
- ・【41～60歳】では【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(48.7%)が最も高く、次いで【景観が美しい川】(40.7%)、【自然に近い川】(37.2%)、【水辺の生き物とふれあうことができる川】(32.7%)となっている。
- ・【41～60歳】では他の年齢層と比べて【水辺の生き物とふれあうことができる川】(32.7%)・【子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川】(4.4%)・【釣りが楽しめる川】(20.4%)・【ボート遊びや河原での遊びができる川】(9.7%)の項目が高い。一方、【区外からも観光客が訪れる川】(2.7%)・【洪水のない川】(13.3%)は低い。
- ・【61歳以上】では【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(48.8%)が最も高く、次いで【自然に近い川】・【景観が美しい川】(ともに39.2%)、【多様な動植物が生息・生育する川】(31.2%)となっている。
- ・【41～60歳】(8.8%)・【61歳以上】(8.0%)では【イベントやレクリエーションが活発に行われる川】が【20～40歳】(4.3%)よりも約2倍高い。

城北川・城北川遊歩道の望む将来像 × 年齢別

(%)

	自然に近い川	多様な動植物が生息・生育する川	野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川	景観が美しい川	ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川	散歩やジョギングなど、健康づくりができる川	子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川
20～40歳	37.7	39.1	29.0	46.4	23.2	34.8	1.4
41～60歳	37.2	28.3	32.7	40.7	28.3	48.7	4.4
61歳以上	39.2	31.2	28.0	39.2	28.8	48.8	3.2
	洪水のない川	釣りが楽しめる川	ボート遊びや河原での遊びができる川	区外からも観光客が訪れる川	イベントやレクリエーションなどが活発に行われる川	その他	無回答
20～40歳	20.3	15.9	5.8	4.3	4.3	5.8	0.0
41～60歳	13.3	20.4	9.7	2.7	8.8	4.4	1.8
61歳以上	21.6	15.2	6.4	4.8	8.0	0.0	1.6

1位 2位 3位

居住年齢別

城北川・城北川遊歩道の望む将来像 × 居住年数別

(%)

	自然に近い川	多様な動植物が生息・生育する川	野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川	景観が美しい川	ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川	散歩やジョギングなど、健康づくりができる川	子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川
1年未満	54.5	45.5	45.5	27.3	36.4	45.5	0.0
1年以上 5年未満	30.0	30.0	25.0	65.0	27.5	40.0	0.0
5年以上 20年未満	50.7	36.2	26.1	39.1	23.2	43.5	2.9
20年以上	34.6	30.3	31.4	38.3	28.2	47.9	3.7
	洪水のない川	釣りが楽しめる川	ボート遊びや河原での遊びができる川	区外からも観光客が訪れる川	イベントやレクリエーションなどが活発に行われる川	その他	無回答
1年未満	9.1	27.3	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
1年以上 5年未満	27.5	7.5	5.0	7.5	0.0	5.0	0.0
5年以上 20年未満	17.4	14.5	10.1	1.4	2.9	2.9	1.4
20年以上	17.0	18.6	6.9	4.3	10.6	2.1	1.6

1位 2位 3位

問7) 城北川沿いのイベントについて

問7 城東区では、将来的に城北川沿いで区民の皆様が参加できるようなイベント（フェスティバル的なもの）を開催したいと考えています。城北川沿いのイベントについて、どのような内容を望まれますか。2つまで選んでください。

1. ウォークラリーなど、健康づくりにつながるもの
2. 川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの
3. 城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの
4. 「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの
5. 高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー
6. フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの
7. 地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント
8. 縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめるもの
9. タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント
10. その他（ ）

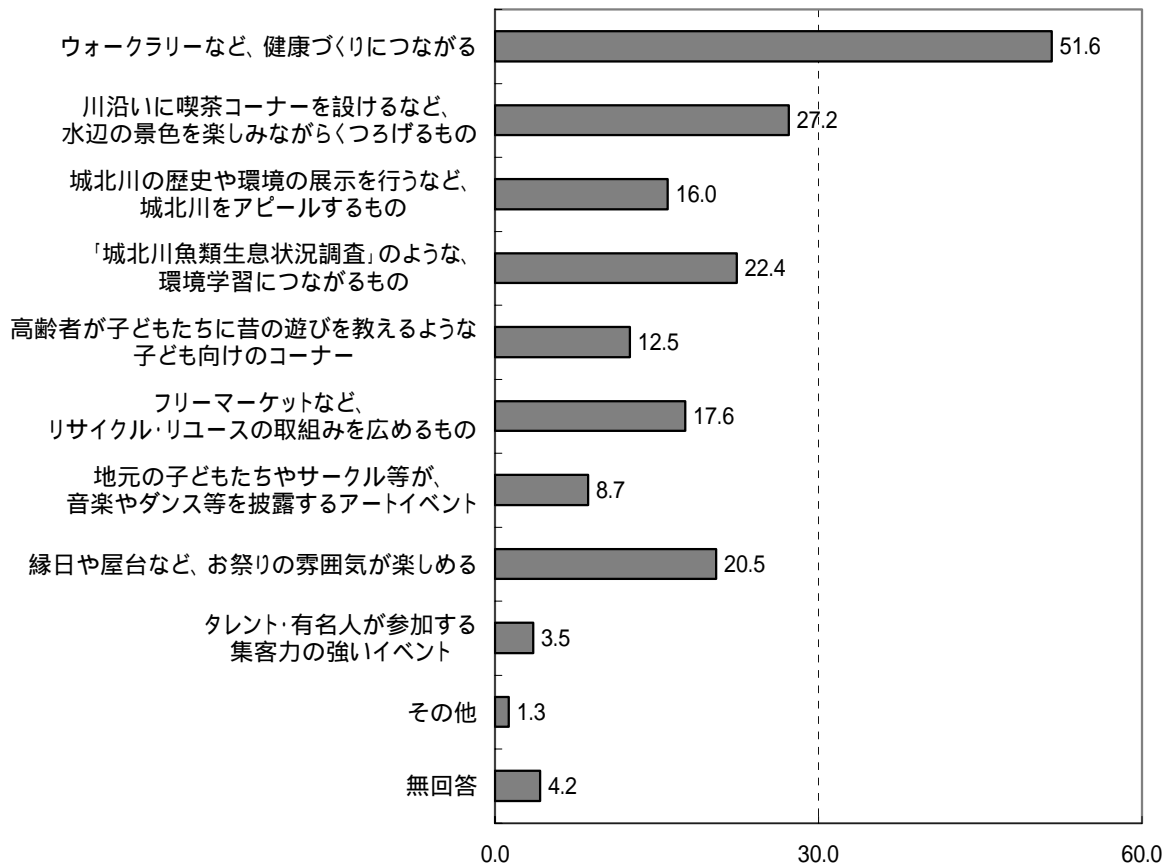
【調査結果】

全体

- ・ イベントの要望は【ウォークラリーなど、健康づくりにつながるもの】(51.6%)が最も高く、半数以上を占めている。
- ・ 【川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの】(27.2%)、【「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの】(22.4%)、【城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの】(16.0%)の項目も高く、水辺の特性を活かしたイベントが期待されているといえる。
- ・ また【「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの】(22.4%)、【城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの】(16.0%)、【高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー】(12.5%)など、学習型のイベントに対する要望も高い。
- ・ 【フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの】(17.6%)、【縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめるもの】(20.5%)などのお祭りの要素も一定のニーズがある。
- ・ 一方、【タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント】(3.5%)の要望は低く、区域外から多く人を集めるというよりも、地元志向で行うことが望まれているといえる。

城北川沿いのイベントについて

(%)



性別

- ・【女性】は【フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの】(19.9%)、【地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント】(9.9%)、【縁日や屋台など、お祭りの雰囲気が楽しめるもの】(21.6%)といったお祭りの項目の割合が【男性】よりも高い。

城北川沿いのイベントについて×性別

(%)

	ウォークラリーなど、健康づくりにつながる	川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの	城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの	「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの	高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー	フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの
男性	54.5	29.1	15.7	26.1	14.2	14.2
女性	50.3	26.9	16.4	19.9	11.1	19.9
	地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント	縁日や屋台など、お祭りの雰囲気が楽しめる	タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント	その他	無回答	
男性	6.7	19.4	3.0	1.5	2.2	
女性	9.9	21.6	4.1	1.2	4.7	

1位 2位 3位

年齢別

- ・ 全年齢別層で【ウォークラリーなど、健康づくりにつながるもの】がそれぞれ最も高い。
- ・ 【縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめるもの】・【フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの】は年齢層が低くなるにつれて高くなる。
- ・ 一方、【城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの】は年齢層が高くなるほど高くなり、【20～40歳】と【61歳以上】では約8倍以上差がある。

城北川沿いのイベントについて×年齢別

(%)

	ウォークラリーなど、健康づくりにつながる	川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの	城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの	「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの	高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー	フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの
20～40歳	46.4	24.6	2.9	27.5	15.9	23.2
41～60歳	55.8	31.0	15.0	20.4	10.6	18.6
61歳以上	52.8	26.4	24.8	21.6	12.0	14.4
	地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント	縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめる	タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント	その他	無回答	
20～40歳	8.7	27.5	0.0	2.9	1.4	
41～60歳	8.0	19.5	8.0	0.9	2.7	
61歳以上	8.0	17.6	1.6	0.8	5.6	

1位

2位

3位

居住年齢別

城北川沿いのイベントについて×居住年数別

(%)

	ウォークラリーなど、健康づくりにつながる	川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの	城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの	「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの	高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー	フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの
1年未満	72.7	36.4	0.0	9.1	18.2	27.3
1年以上 5年未満	52.5	30.0	7.5	27.5	22.5	15.0
5年以上 20年未満	44.9	30.4	7.2	24.6	11.6	24.6
20年以上	53.2	25.5	22.3	20.2	10.1	15.4
	地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント	縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめる	タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント	その他	無回答	
1年未満	0.0	27.3	9.1	0.0	0.0	
1年以上 5年未満	7.5	17.5	0.0	5.0	0.0	
5年以上 20年未満	10.1	24.6	4.3	0.0	2.9	
20年以上	9.0	19.1	3.7	1.1	5.3	

1位 2位 3位

問8) イベントの許容範囲について

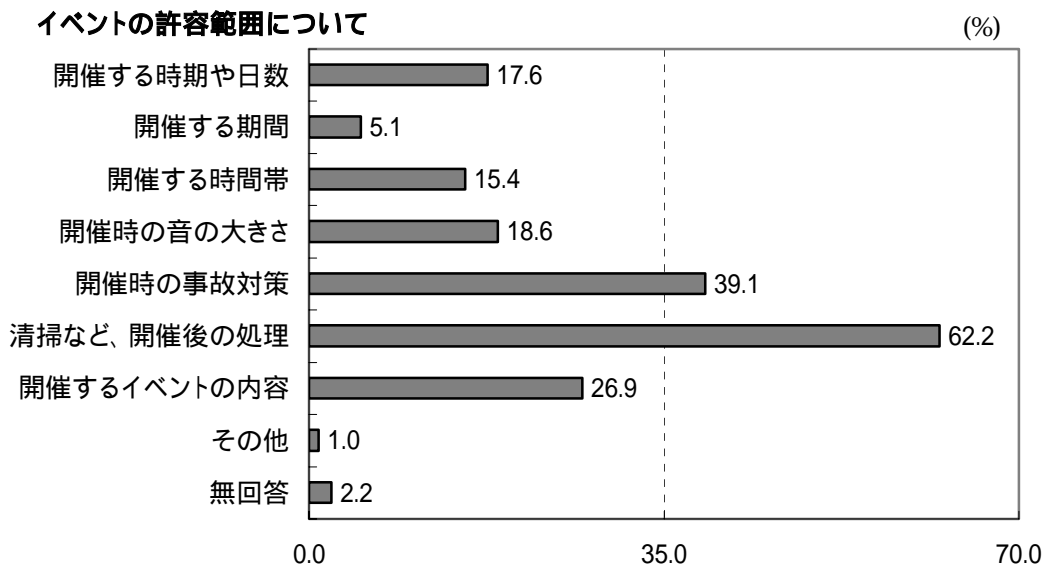
問8 城北川沿いに暮らす住民として、城北川沿いでイベントが開催される場合、どのようなことに注意してほしいと思いますか。最も重視することを2つまで選んでください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 開催する時期や日数 | 2. 開催する期間 |
| 3. 開催する時間帯 | 4. 開催時の音の大きさ |
| 5. 開催時の事故対策 | 6. 清掃など、開催後の処理 |
| 7. 開催するイベントの内容 | 8. その他() |

【調査結果】

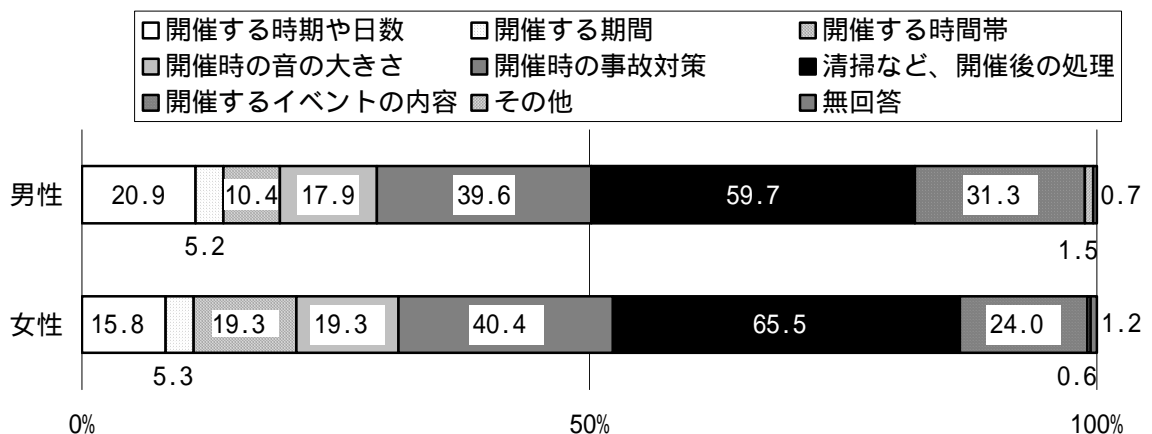
全体

- ・ イベントの許容範囲に関しては【清掃など、開催後の処理】(62.2%)が全体の6割以上を占めている。次に【開催時の事故対策】(39.1%)、【開催するイベント内容】(26.9%)の順に高い。イベント開催後および開催中の対策が重視されている。



性別

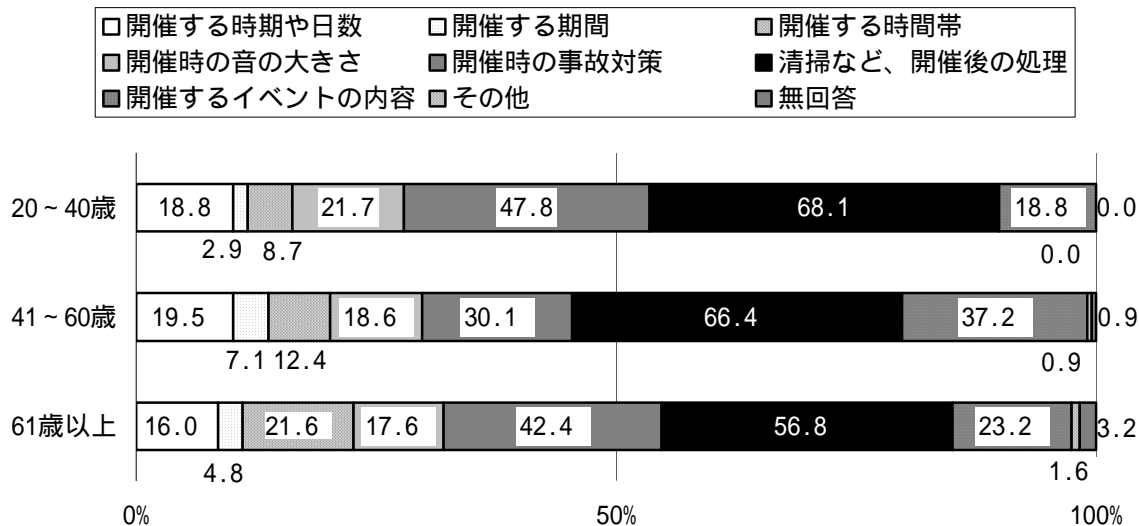
イベント許容範囲について×性別



年齢別

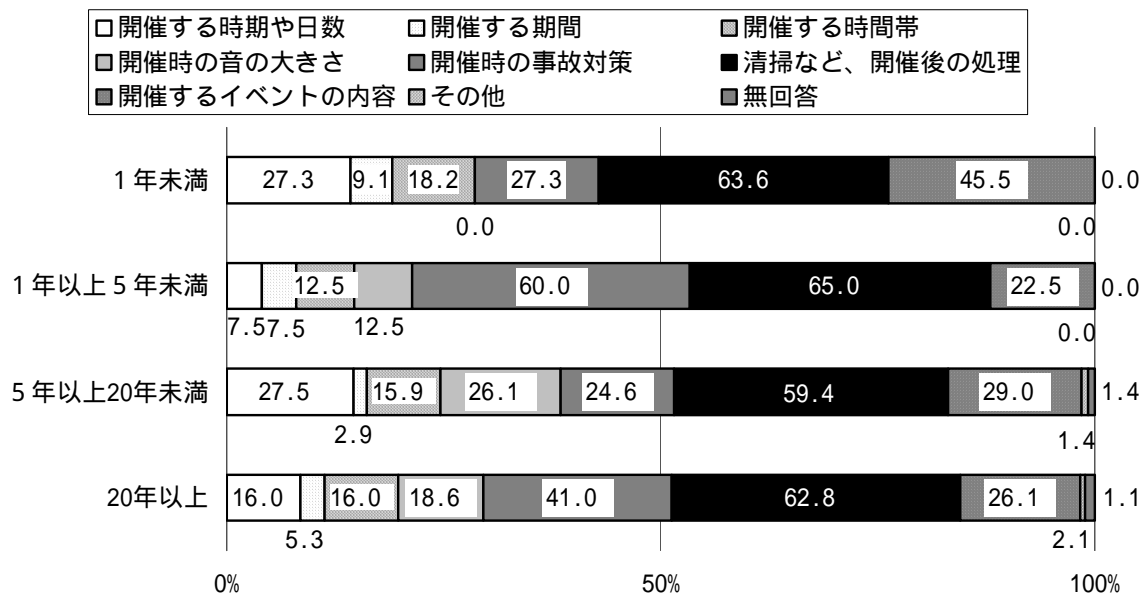
- ・【20～40歳】・【61歳以上】では【清掃など、開催後の処理】が最も高く、次いで【開催時の事故対策】が高い。これは【20～40歳】の子育て層や【61歳以上】の孫を持つ層からの要望と推測される。
- ・【41～60歳】では【清掃など、開催後の処理】が最も高く、次いで【開催するイベント内容】が高く、イベント内容への要望が厳しい。

イベントの許容範囲について×年齢別



居住年齢別

イベントの許容範囲について×居住年数



問9) イベント開催時における居住環境への影響について

問9 城北川沿いでイベントが開催される場合の居住環境への影響について、どの程度まで許容できますか。以下のそれぞれの条件について、あなたが許せる範囲に一番近いものを1つ選んでください。

【開催頻度について】

1. 全く気にしない
2. 1～2ヶ月に1回程度まで
3. 年に2～3回程度まで
4. 年に1回程度

【時間帯について】

1. 全く気にしない
2. 休日であれば時間帯は気にしない
3. 基本的には、昼間の開催しかダメだが、年に1回程度であれば夜に開催しても構わない
4. 昼間の開催であれば構わない

【騒音について】 「年に1回程度」として考えてください。

1. 楽器の音や歌声が、音響設備を通して流れてくる状態
2. 現場で生演奏する楽器の音や歌声が聞こえる状態
3. 司会者の呼びかけがマイク越しに聞こえる状態
4. 参加者の歓声が聞こえる状態

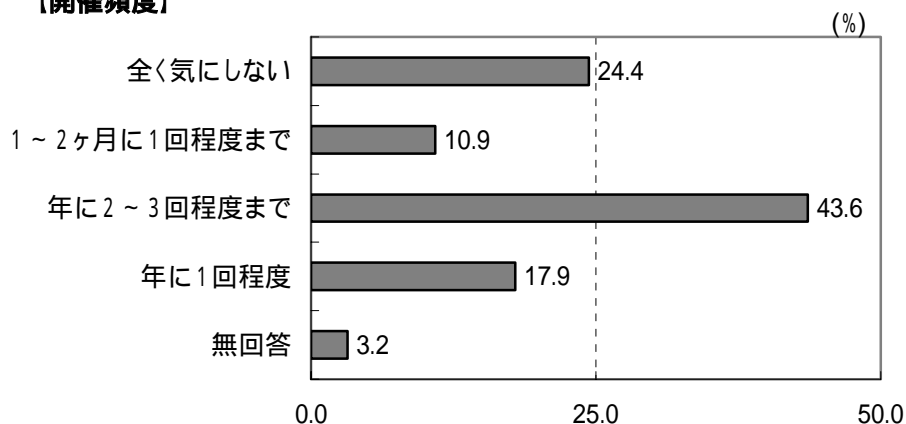
【調査結果】

【開催頻度について】

全体

- ・ 開催頻度に関しては、【年に2～3回程度まで】(43.6%)が最も多く、全体の約4割を占める。次いで【全く気にしない】(24.4%)は約2割を示し、【年に1回程度】(17.9%)、【1～2ヶ月に1回程度まで】(10.9%)となった。

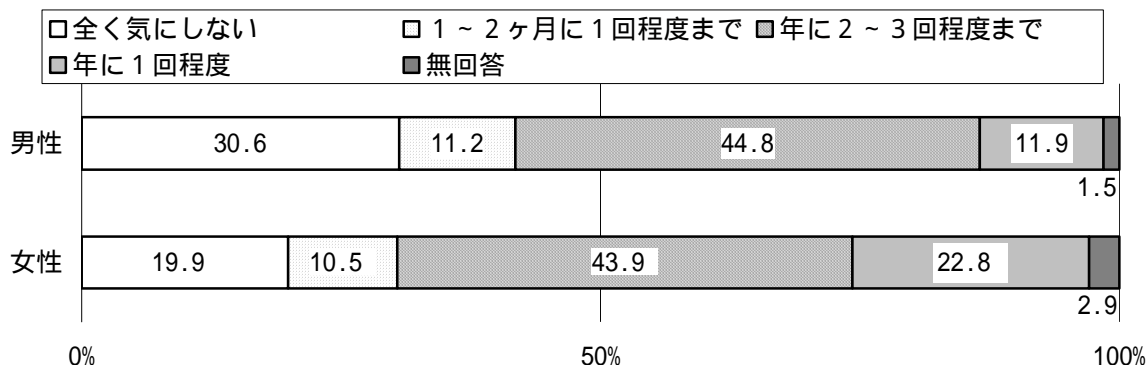
【開催頻度】



性別

- ・ 【全く気にしない】は【男性】は30.6%と【年に2～3回程度】の次に高く、全体の3割を占めている。これに対し、【女性】は19.9%と全体の約2割である。
- ・ 【年に1回程度】は【女性】が22.8%と2割以上を占めているが、【男性】では11.9%と1割程度である。

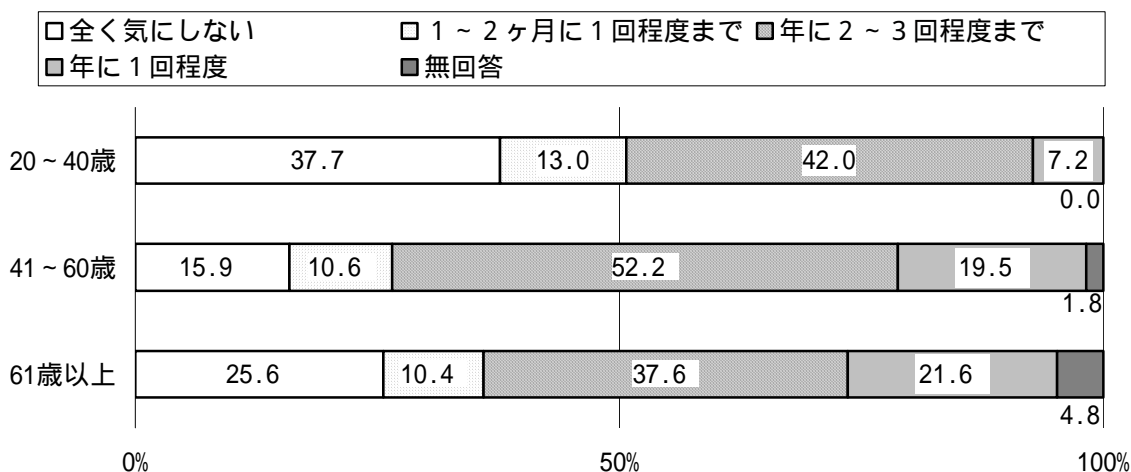
【開催頻度】×性別



年齢別

- ・ 【20～40歳】は【年に2～3回まで】(42.0%)に次いで【全く気にしない】(37.7%)の割合が他世代より高く、子育て層はイベントの回数が多いことを気にしない割合が高い。
- ・ 【41～60歳】は【年に2～3回程度まで】が52.2%と半数以上を占めている。この世代は働き盛りの多いこともあり、【年に1回程度】(19.5%)と合計すると全体の約7割(71.7%)を占め、年に1～3回程度までの開催頻度を要望する回答が全年齢層のなかで最も高い。
- ・ 年齢別層が高くなると【年に1回程度】の高くなる傾向にあり、【61歳以上】(21.6%)は【20～40歳】(7.2%)の3倍となる。

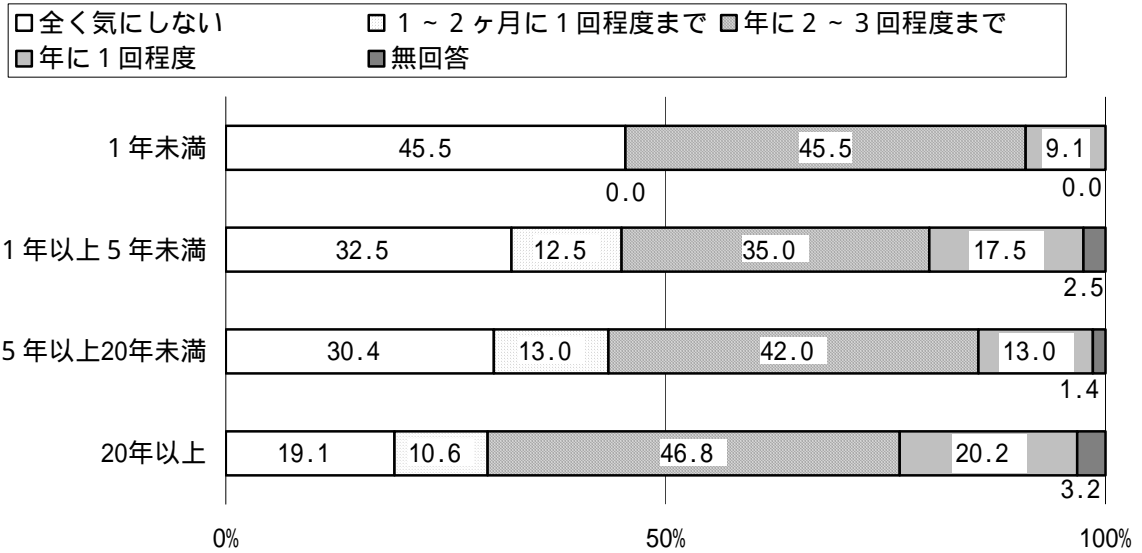
【開催頻度】×年齢別



居住年数別

- ・ 居住年数が低くなるにつれて【全く気にしない】が高くなる傾向にあり、【1年未満】では45.5%と半数を占める。
- ・ 一方、【1年未満】を除き、居住年数が高くなるほど【年に2～3回程度】の割合が1割ほど高くなる。

【開催頻度】×居住年数別

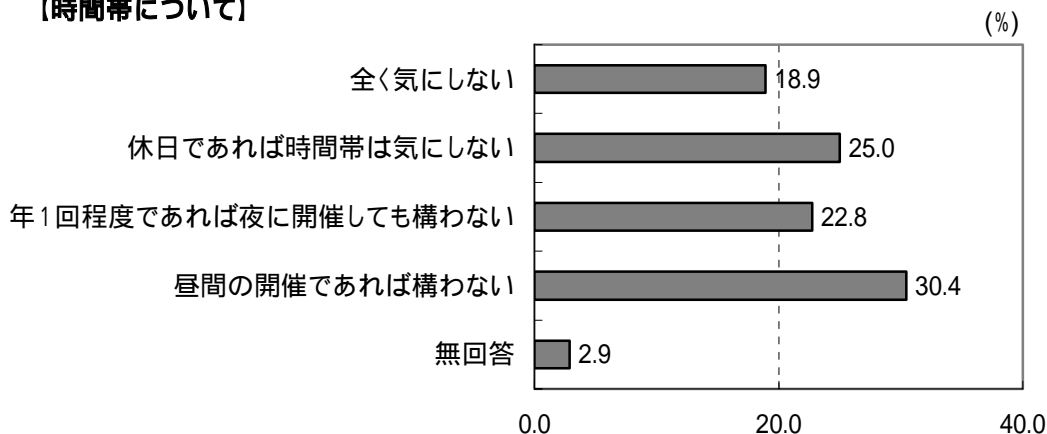


【時間帯について】

全体

- 開催時間に関しては、【昼間の開催であれば構わない】(30.4%)が最も高く、以下、【休日であれば時間帯は気にしない】(25.0%)、【年1回程度であれば夜に開催しても構わない】(22.8%)、【全く気にしない】(18.9%)と続く。

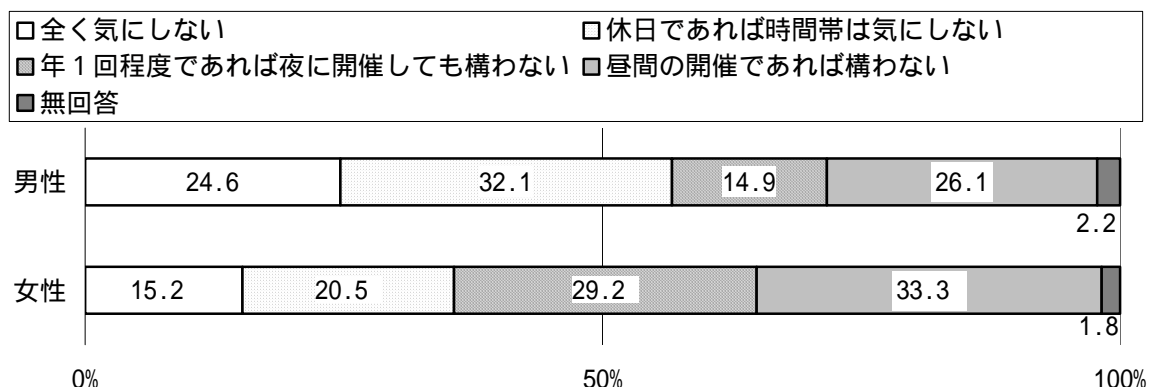
【時間帯について】



性別

- 【男性】は【休日であれば時間帯は気にしない】(32.1%)が最も高く、全体の約3割を占めている。次いで【昼間の開催であれば構わない】(26.1%)、【全く気にしない】(24.6%)であった。男性は仕事との関連から平日よりも休日にイベントを行うことを重視する傾向にあると推測される。
- 【女性】は【昼間の開催であれば構わない】(33.3%)、【年1回程度であれば夜に開催しても構わない】(29.2%)が高く、それぞれ約3割程度を占める。
- 【年1回程度であれば夜に開催しても構わない】に関しては、【男性】(14.9%)に対し、【女性】(29.2%)の方が約2倍高くなった。

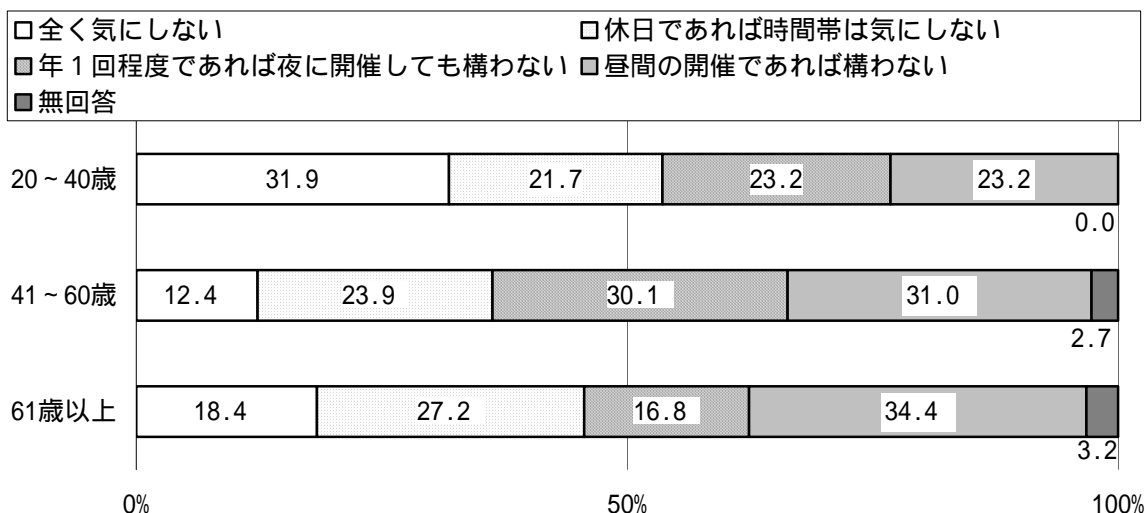
【時間帯】×性別



年齢別

- ・ 20～40歳は【全く気にしない】(31.9%)が最も高く、年齢層を比較しても最も高い。
- ・ 【年1回程度であれば夜に開催しても構わない】は【41～60歳】(30.1%)が最も高く、【61歳以上】(16.8%)が最も低い。
- ・ 年齢別層が高くなるにつれ、【昼間の開催であれば構わない】、【休日であれば時間帯は気にしない】の割合が高くなる。

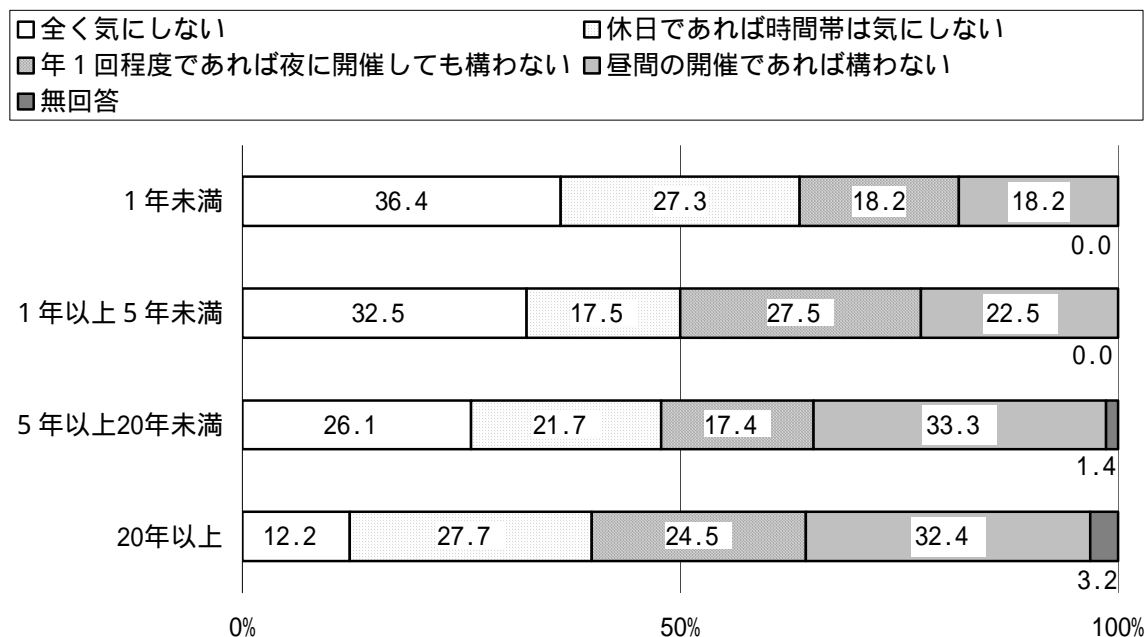
【時間帯】×年齢別



居住年数別

- ・ 居住年数が低くなるにしたがって【全く気にしない】が占める割合が約3倍近く高くなる。
- ・ 【5年以上20年未満】、【20年以上】では【昼間の開催であれば構わない】の割合が高く、それぞれ30%台を占めている。

【時間帯】×居住年数別

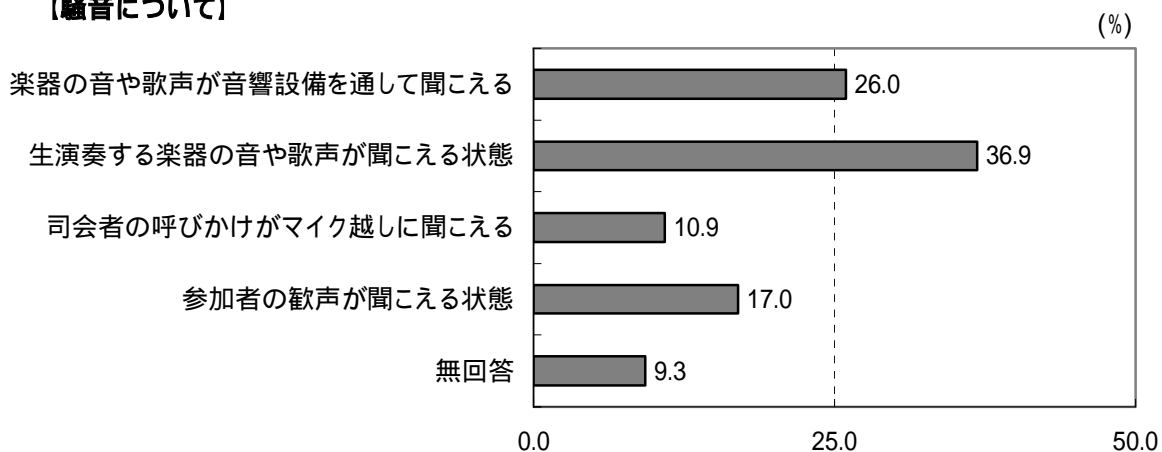


【騒音について】

全体

- ・ 騒音に関しては【生演奏する楽器の音や歌声が聞こえる状態】(36.9%)が最も高く、【楽器の音や歌声が音響設備を通して聞こえる】(26.0%)を合わせて、音楽等の騒音に関しては約6割(62.9%)の住民が許容しているが、生演奏程度の割合の方が高い。
- ・ 【司会者の呼びかけがマイク越しに聞こえる】は10.9%と最も低く、許容されにくい騒音となっている。

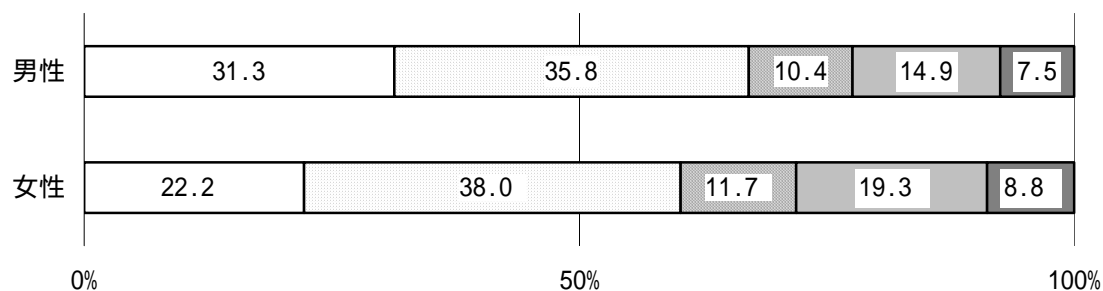
【騒音について】



性別

【騒音について】×性別

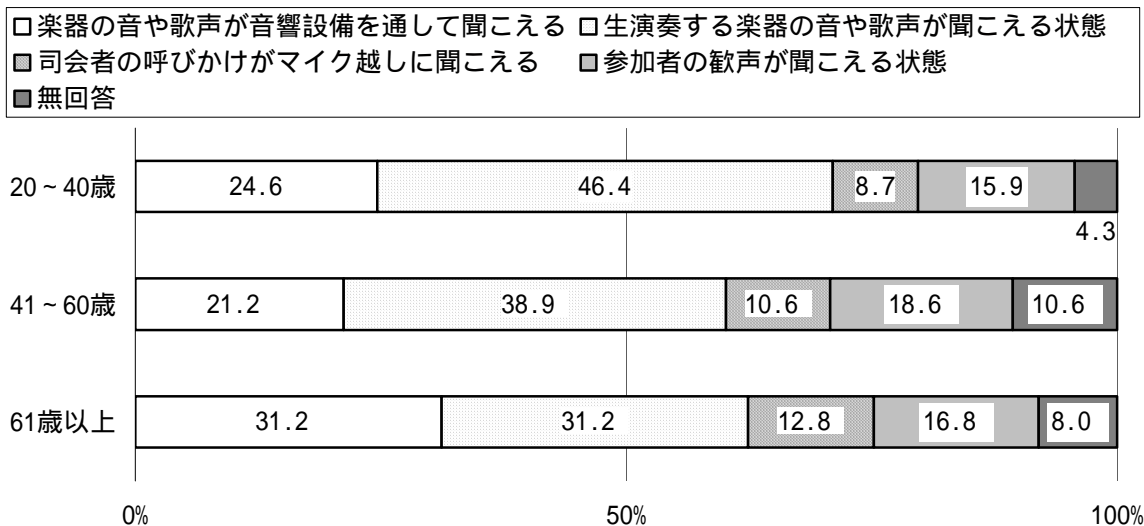
楽器の音や歌声が音響設備を通して聞こえる
 生演奏する楽器の音や歌声が聞こえる状態
 司会者の呼びかけがマイク越しに聞こえる
 参加者の歓声が聞こえる状態
 無回答



年齢別

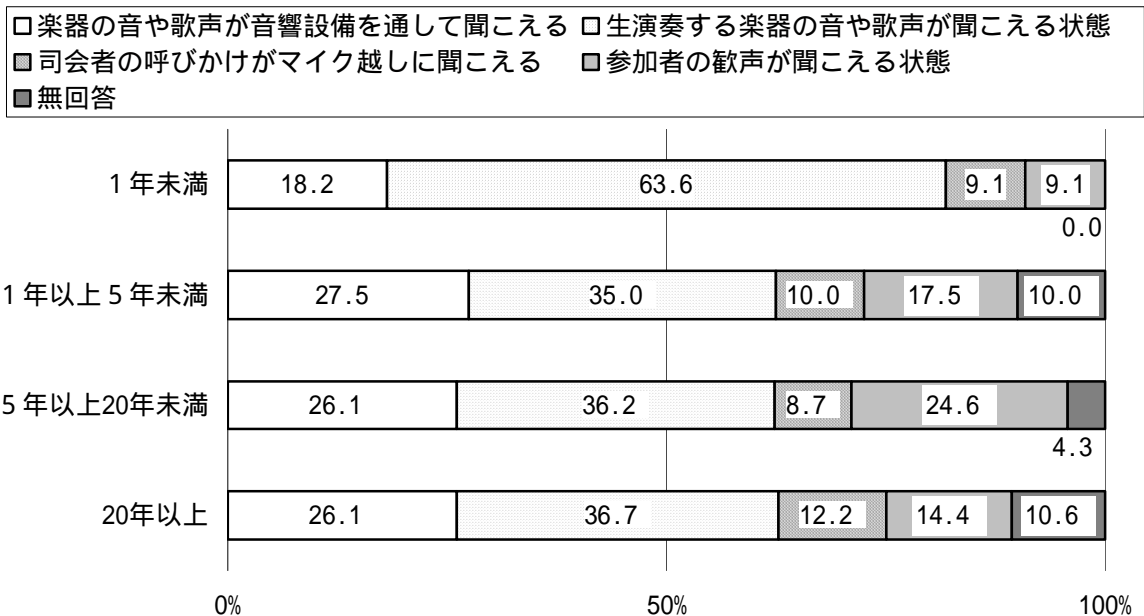
- ・ 【61歳以上】は【楽器の音や歌声が音響設備を通して聞こえる】(31.2%)、【司会者の呼びかけがマイク越しに聞こえる】(12.8%)の割合が他の年齢層よりも高く、音響設備の使用に対して寛容である。

【騒音について】×年齢別



居住年数別

【騒音について】×居住年数別



問10) イベントへの参加意向

問10 城北川沿いのイベントにあなたが参加するとすれば、どのような参加の仕方が可能ですか。
2つまで選んでください。

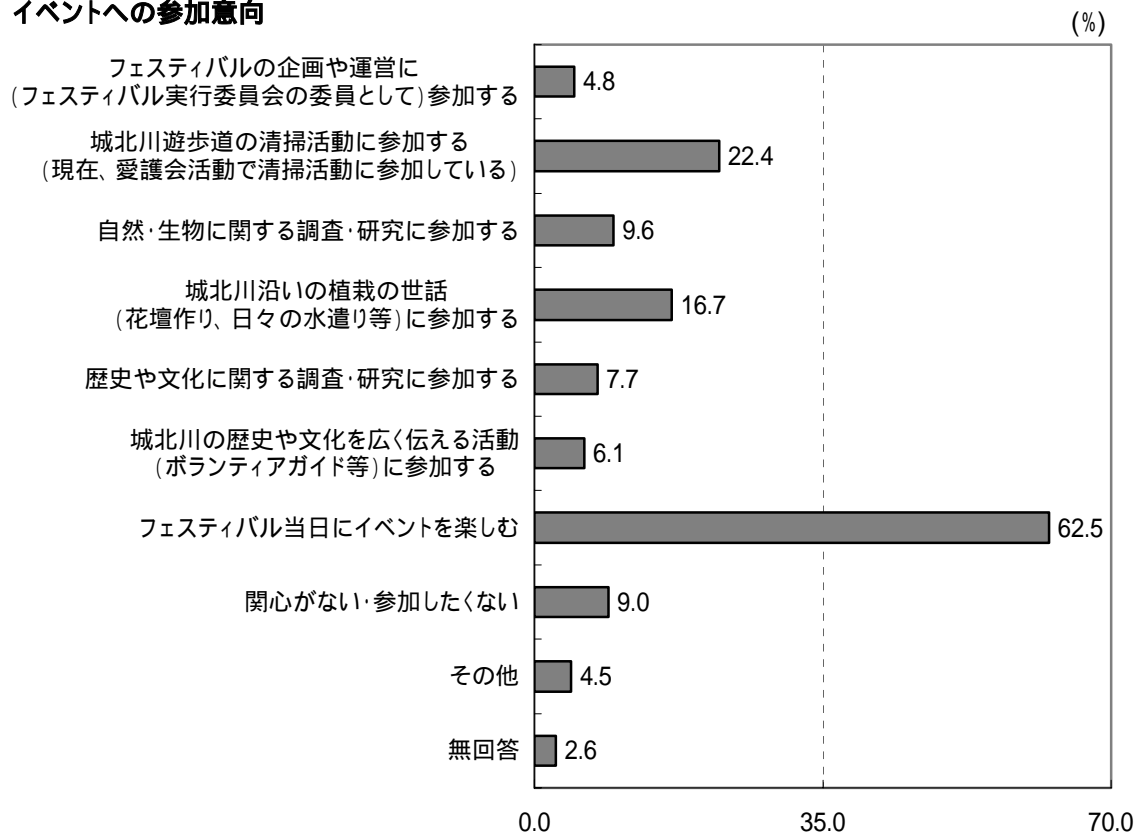
1. フェスティバルの企画や運営に参加する(フェスティバル実行委員会の委員として参加する)
2. 城北川遊歩道の清掃活動に参加する(現在、愛護会活動で清掃活動に参加している)
3. 城北川の自然・生物に関する調査・研究に参加する
4. 城北川沿いの植栽の世話(花壇づくり、日々の水遣り等)に参加する
5. 城北川の歴史や文化に関する調査・研究に参加する
6. 城北川の歴史や文化を広く伝える活動(ボランティアガイド等)に参加する
7. フェスティバル当日にイベントを楽しむ
8. 関心がない・参加したくない
9. その他()

【調査結果】

全体

- ・ 【フェスティバル当日にイベントを楽しむ】(62.5%)という受け身的な楽しみ方が約6割を占め、最も高い。
- ・ 次いで、イベントへの積極的な参加に関して、【城北川遊歩道の清掃活動に参加する】(22.4%)・【城北川沿いの植栽の世話に参加する】(16.7%)といった美化・清掃系が高くなっており、それ以外の活動への参加意向は低い。

イベントへの参加意向



性別

- ・【フェスティバル当日にイベントを楽しむ】が【男性】・【女性】とも約6割前後を占めているが、【男性】(58.2%)の方が、【女性】(66.7%)よりも低く、逆に全般的に環境的な活動の参加の項目は【男性】の方が高い傾向にある。
- ・【男性】は【城北川の自然・生物に関する調査・研究に参加する】意向が18.7%あり、【女性】(2.9%)よりも約6倍高い。

イベントへの参加意向×性別

(%)

	フェスティバルの企画や運営に(フェスティバル実行委員会の委員として)参加する	城北川遊歩道の清掃活動に参加する(現在、愛護会活動で清掃活動に参加している)	自然・生物に関する調査・研究に参加する	城北川沿いの植栽の世話(花壇作り、日々の水遣り等)に参加する	歴史や文化に関する調査・研究に参加する
男性	5.2	24.6	18.7	17.2	9.7
女性	4.7	21.1	2.9	17.0	6.4
	城北川の歴史や文化を広く伝える活動(ボランティアガイド等)に参加する	フェスティバル当日にイベントを楽しむ	関心がない・参加したくない	その他	無回答
男性	6.0	58.2	7.5	3.0	2.2
女性	6.4	66.7	9.4	5.8	1.2

1位 2位 3位

年齢別

- ・ 【フェスティバル当日にイベントを楽しむ】受け身的な楽しみ方が全年齢別層で最も多く、それぞれ約6～7割を占めるが、年齢層が低くなるに従って割合も高くなっている。
- ・ イベントの参加意向に関しては美化・清掃系の項目が高く、年齢層が高くなるにともなって割合も高くなる。特に【城北川沿いの植栽の世話(花壇づくり、日々の水遣り等)に参加する】は【20～40歳】(7.2%)に対し、【41～60歳】(17.7%)の割合は2倍以上、【61歳以上】(21.6%)の割合は約3倍となった。
- ・ また【城北川の歴史や文化に関する調査・研究に参加する】意向は【20～40歳】(2.9%)に対し、【41～60歳】(6.2%)では約2倍、【61歳以上】(12.0%)では約4倍となった。
- ・ 一方、【城北川の自然・生物に関する調査・研究に参加する】に関しては、年齢層が低くなるほど参加の意向が高く、【61歳以上】(7.2%)に対し、【20～40歳】(14.5%)では約2倍となっている。

イベントへの参加意向×年齢別

(%)

	フェスティバルの企画や運営に(フェスティバル実行委員会の委員として)参加する	城北川遊歩道の清掃活動に参加する(現在、愛護会活動で清掃活動に参加している)	自然・生物に関する調査・研究に参加する	城北川沿いの植栽の世話(花壇作り、日々の水遣り等)に参加する	歴史や文化に関する調査・研究に参加する
20～40歳	5.8	11.6	14.5	7.2	2.9
41～60歳	5.3	24.8	9.7	17.7	6.2
61歳以上	4.0	27.2	7.2	21.6	12.0
	城北川の歴史や文化を広く伝える活動(ボランティアガイド等)に参加する	フェスティバル当日にイベントを楽しむ	関心がない・参加したくない	その他	無回答
20～40歳	2.9	72.5	8.7	1.4	0.0
41～60歳	8.8	64.6	4.4	3.5	1.8
61歳以上	5.6	56.8	12.0	7.2	3.2

1位 2位 3位

居住年数別

- ・ 【フェスティバル当日にイベントを楽しむ】は全居住年数において6割以上を占めている。
- ・ 居住年数が【5年以上20年未満】は【城北川遊歩道の清掃活動に参加する(現在、愛護会活動で清掃活動に参加している)】意向が5.8%にとどまり、【1年以上5年未満】(20.0%)、【20年以上】(29.3%)に比べ、極端に少ない。
- ・ 一方、【城北川の歴史や文化を広く伝える活動(ボランティアガイド等)に参加する】意向は、【5年以上20年未満】が10.1%であり、【1年以上5年未満】(5.0%)・【20年以上】(4.8%)の約2倍ある。
- ・ 【1年未満】を除き、【フェスティバルの企画や運営に参加する(フェスティバル実行委員会の委員として参加する)】意向は居住年数が低くなるに従って高くなっている。【1年以上5年未満】(12.5%)は【5年以上20年未満】(5.8%)の約2倍、【20年以上】(3.2%)の約4倍となっている。

イベントへの参加意向×居住年数別 (％)

	フェスティバルの企画や運営に(フェスティバル実行委員会の委員として)参加する	城北川遊歩道の清掃活動に参加する(現在、愛護会活動で清掃活動に参加している)	自然・生物に関する調査・研究に参加する	城北川沿いの植栽の世話(花壇作り、日々の水遣り等)に参加する	歴史や文化に関する調査・研究に参加する
1年未満	0.0	18.2	9.1	18.2	27.3
1年以上5年未満	12.5	20.0	10.0	10.0	2.5
5年以上20年未満	5.8	5.8	10.1	14.5	4.3
20年以上	3.2	29.3	9.6	19.1	9.0
	城北川の歴史や文化を広く伝える活動(ボランティアガイド等)に参加する	フェスティバル当日にイベントを楽しむ	関心がない・参加したくない	その他	無回答
1年未満	0.0	63.6	9.1	0.0	0.0
1年以上5年未満	5.0	65.0	5.0	5.0	0.0
5年以上20年未満	10.1	69.6	11.6	7.2	1.4
20年以上	4.8	60.6	8.5	3.7	2.7



問11) 活動に参加・協力する際に重視すること

問11 もし、あなたが城北川での活動に参加・協力する場合、どのようなことを重視しますか。

2つまで選んでください。

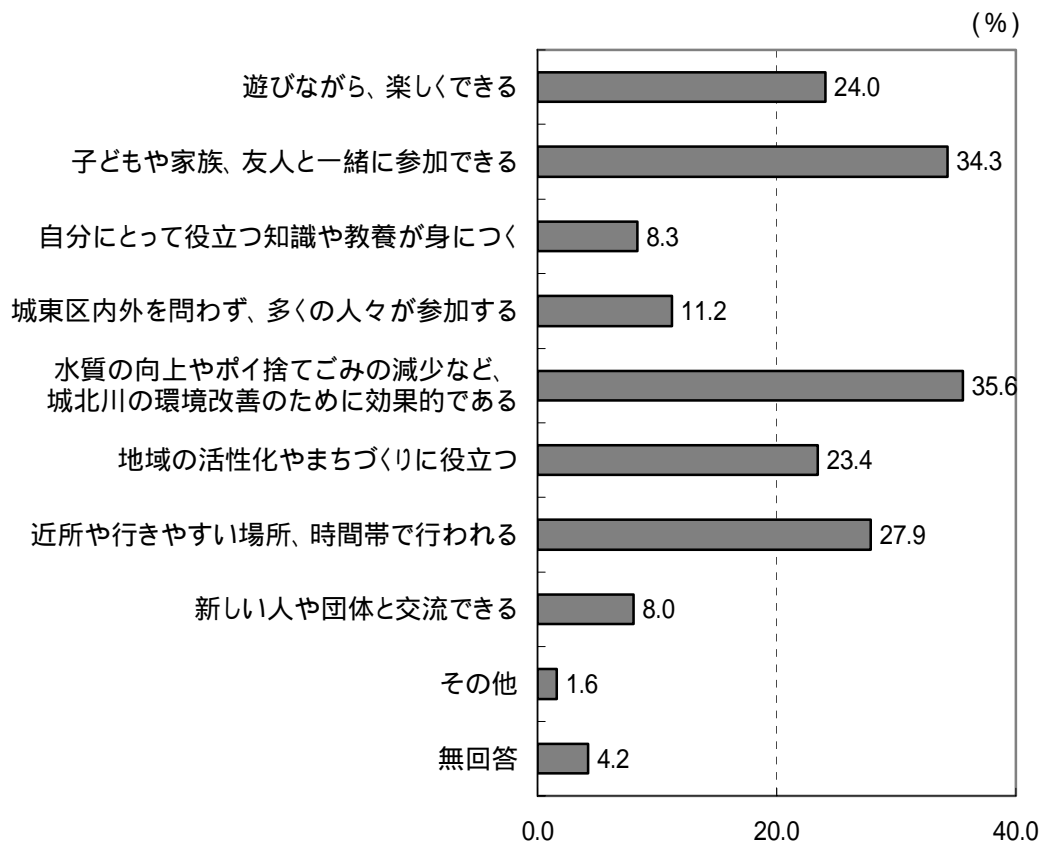
1. 遊びながら、楽しくできる
2. 子どもや家族、友人と一緒に参加できる
3. 自分にとって役立つ知識や教養が身につく
4. 城東区内外を問わず、多くの人々が参加する
5. 水質の向上やポイ捨てごみの減少など、城北川的环境改善のために効果的である
6. 地域の活性化やまちづくりに役立つ
7. 近所や行きやすい場所、時間帯で行われる
8. 新しい人や団体と交流できる
9. その他()

【調査結果】

全体

- ・ 活動に参加・協力する際に重視することは、【水質の向上やポイ捨てごみの減少など、城北川的环境改善のために効果的である】(35.6%)、【子どもや家族、友人と一緒に参加できる】(34.3%)が高かった。次いで、【近所や行きやすい場所、時間帯で行われる】(27.9%)、【遊びながら、楽しくできる】(24.0%)、【地域の活性化やまちづくりに役立つ】(23.4%)となっている。
- ・ 一方、【自分にとって役立つ知識や教養が身につく】(8.3%)、【城東区内外を問わず、多くの人々が参加する】(11.2%)、【新しい人や団体と交流できる】(8.0%)の割合は低い。
- ・ イベントに参加する際、活動の目的が城北川的环境改善に効果的であり、「自分のため」というよりも「地域のため」に参加するという傾向があり、参加スタイルとしては、参加者は家族や友人などの近隣の住民同士と楽しみながら参加できること、参加しやすい場所・時間帯にイベントを行うことがポイントとなっている。

活動に参加・協力する際に重視すること



性別

	遊びながら、楽しくできる	子どもや家族、友人と一緒に参加できる	自分にとって役立つ知識や教養が身につく	城東区内外を問わず、多くの人々が参加する	水質の向上やポイ捨てごみの減少など、城北川の環境改善のために効果的である
男性	23.9	31.3	12.7	9.7	38.8
女性	24.6	37.4	5.3	12.9	32.7
	地域の活性化やまちづくりに役立つ	近所や行きやすい場所、時間帯で行われる	新しい人や団体と交流できる	その他	無回答
男性	23.1	29.1	10.4	0.7	2.2
女性	24.0	27.5	6.4	2.3	4.1

1位 2位 3位

年齢別

- ・ 【20～40歳】では【子どもや家族、友人と一緒に参加できる】(50.7%)が半数を占めており、他の年齢層に比べ20%程度高くなっている。
- ・ 【地域の活性化やまちづくりに役立つ】と回答するのは【20～40歳】(14.5%)に対し、【61歳以上】(29.6%)は約2倍高く、年齢層が高くなるにつれて割合も高くなっている。

	遊びながら、楽しくできる	子どもや家族、友人と一緒に参加できる	自分にとって役立つ知識や教養が身につく	城東区内外を問わず、多くの人々が参加する	水質の向上やポイ捨てごみの減少など、城北川の環境改善のために効果的である
20～40歳	26.1	50.7	5.8	7.2	30.4
41～60歳	21.2	29.2	11.5	13.3	44.2
61歳以上	25.6	31.2	7.2	12.0	30.4
	地域の活性化やまちづくりに役立つ	近所や行きやすい場所、時間帯で行われる	新しい人や団体と交流できる	その他	無回答
20～40歳	14.5	30.4	10.1	0.0	1.4
41～60歳	23.0	31.9	5.3	0.9	0.9
61歳以上	29.6	24.0	8.0	3.2	7.2

1位 2位 3位

居住年数別

活動に参加・協力する際に重視すること×居住年数別 (％)

	遊びながら、楽しく できる	子どもや家族、友人と 一緒に参加できる	自分にとって役立つ 知識や教養が身につく	城東区内外を問わず、 多くの人々が参加する	水質の向上やポイ捨てごみの減少など、 城北川の環境改善のために効果的 である
1年未満	27.3	45.5	18.2	18.2	27.3
1年以上 5年未満	25.0	32.5	10.0	10.0	40.0
5年以上 20年未満	30.4	42.0	8.7	8.7	26.1
20年以上	21.8	31.4	7.4	12.2	38.3
	地域の活性化やまち づくりに役立つ	近所や行きやすい 場所、時間帯で行われる	新しい人や団体と 交流できる	その他	無回答
1年未満	9.1	9.1	36.4	0.0	0.0
1年以上 5年未満	25.0	22.5	10.0	5.0	0.0
5年以上 20年未満	15.9	27.5	8.7	0.0	2.9
20年以上	27.1	30.9	5.9	1.6	4.8

1位 2位 3位

問12)「城東区長改革マニフェスト」の認知度

問12 城東区役所では、区政改革に取り組むべく平成18年2月に「城東区長改革マニフェスト」を策定しました。「城東区長改革マニフェスト」については、区広報「ふれあい城東」5月号や区のホームページに掲載をしています。この「城東区長改革マニフェスト」について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. 内容を知っていたし、家族や知人と内容について話し合ったことがある
2. 「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた
3. 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
4. 全く知らなかった

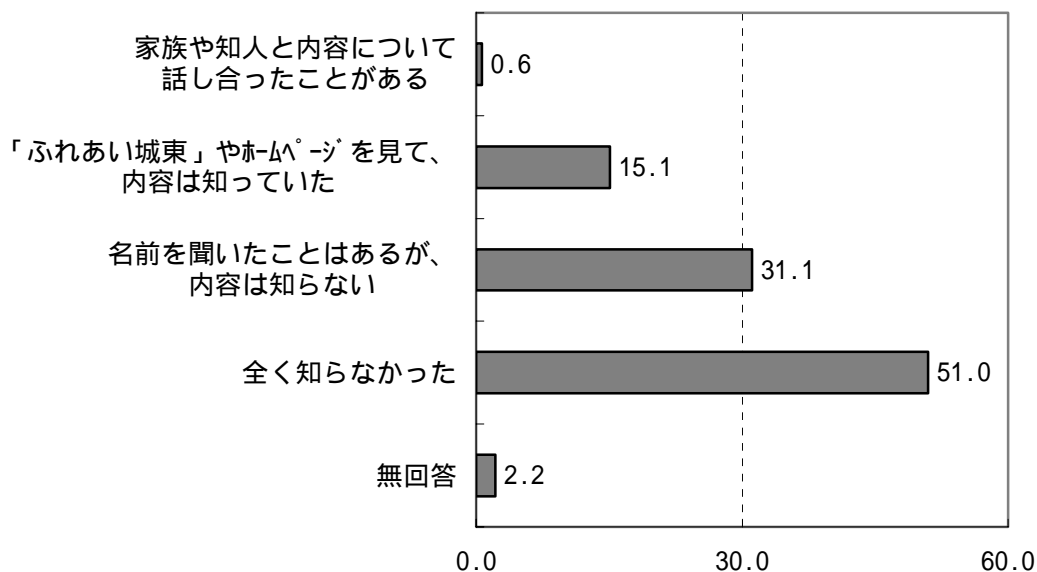
【調査結果】

全体

- ・ 「区長マニフェスト」に関しては、【全く知らなかった】(51.0%)が半数以上を占めている。
- ・ 【名前を聞いたことはあるが、内容は知らない】(31.1%)が約3割いる。
- ・ 名前・内容ともに知っているのは、【「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた】(15.1%)と【家族や知人と内容について話し合ったことがある】(0.6%)を合わせて15.7%であり、認知度は高くない。

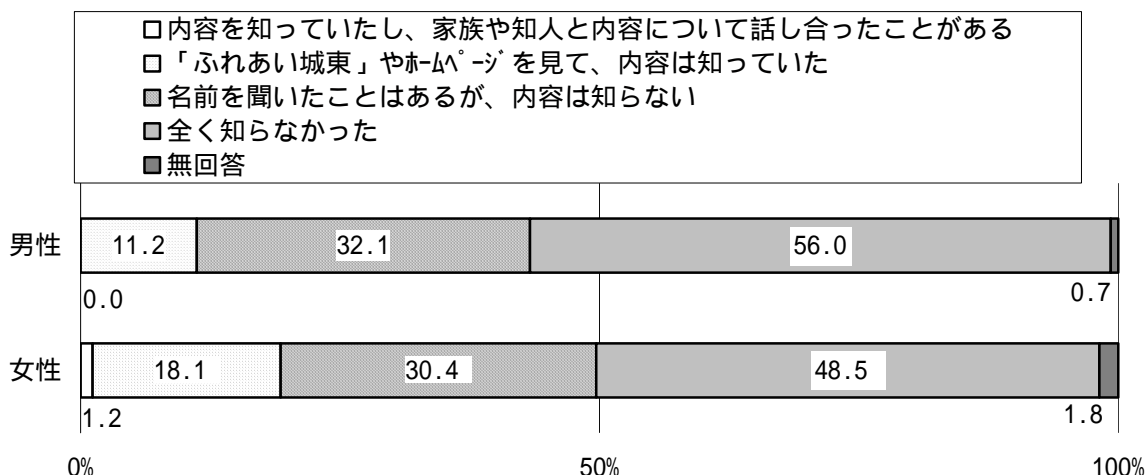
「区長マニフェスト」の認知度

(%)



性別

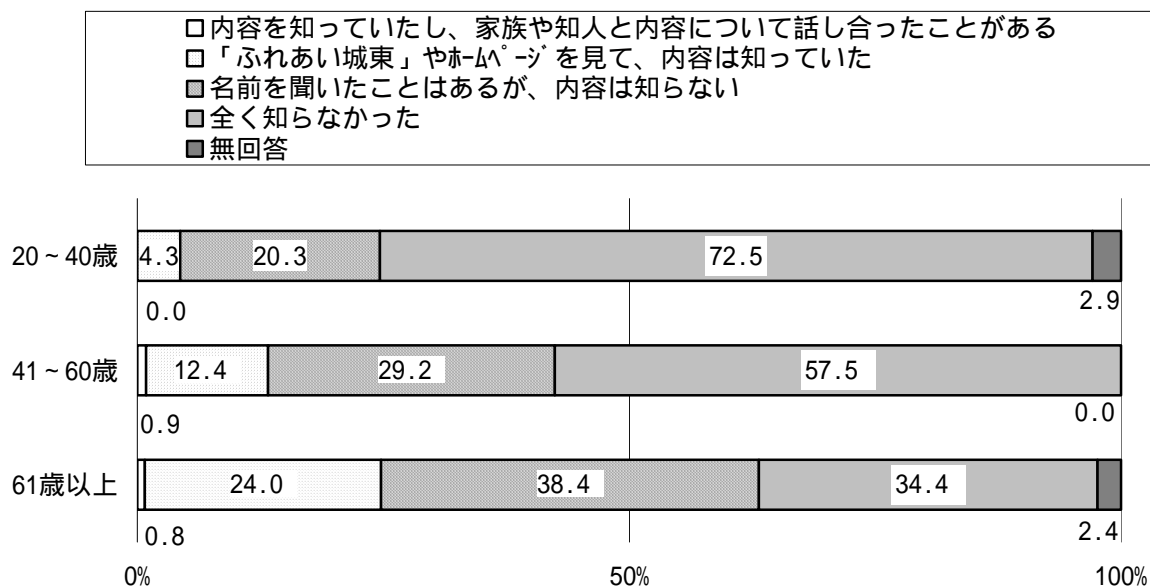
「城東区長改革manifesto」について×性別



年齢別

- ・ 「区長manifesto」は【20～40歳】(72.5%)では7割以上、【41～60歳】(57.5%)では約6割が【全く知らなかった】と回答しており、十分に認知されていない状況である。
- ・ 【名前を聞いたことはあるが、内容は知らない】は年齢層が高くなるほど割合が高く、【20～40歳】(20.3%)と【61歳以上】(38.4%)の差は2倍近くになる。
- ・ 同じく、【「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた】も年齢層が高くなるにつれ、【20～40歳】(4.3%)と【61歳以上】(24.0%)との差は6倍近くに達する。
- ・ 【61歳以上】では約4割が【名前を聞いたことはあるが、内容は知らない】(38.4%)、約1/4が【「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた】(24.0%)と回答しており、認知度(計62.4%)は他の年齢層より高く、この年齢層においては、広報紙がよく読まれていると推測される。

「城東区長改革manifesto」について×年齢別

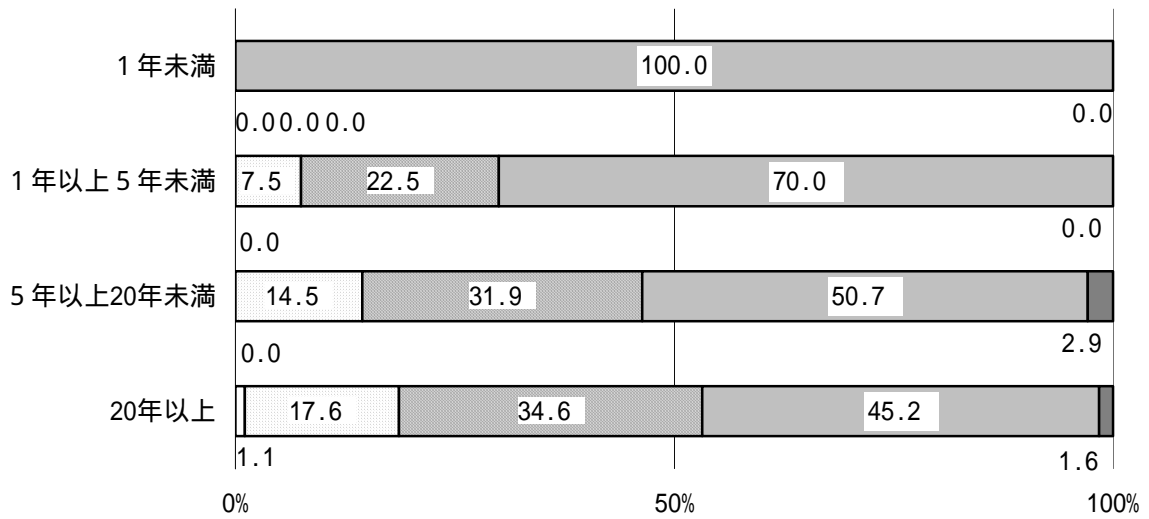


居住年数別

- ・ 「区長マニフェスト」を【全く知らなかった】のは、居住年数が【1年以上5年未満】(70.0%)では7割、【5年以上20年未満】(50.7%)においても約半数を占めている。
- ・ 【名前を聞いたことはあるが、内容は知らない】・【「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた】はそれぞれ居住年数が高くなるにともない、その割合は高くなっている。

「城東区長改革マニフェスト」について×居住年数別

内容を知っていたし、家族や知人と内容について話し合ったことがある
 「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた
 名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
 全く知らなかった
 無回答



4 . アンケート調査結果のまとめ

城北川沿いのイベントについて

健康づくりにつながるイベント、水辺の景観を楽しめるイベント開催が望まれる

現在の「城北川を訪れる目的」を聞いた問2では、【遊歩道の散歩や散策を楽しむ】が49.7%と最も多く、以下、【水辺の景色を楽しむ】が20.5%、【ジョギングなど健康づくりに行く】が18.9%で続いた。城北川及び城北川遊歩道は、車やバイクの走らない安全で、ゆっくりと景観を見ながら歩くことができる空間であり、散歩や散策、ジョギングなどによく利用されていることがわかる。

今後の城北川の利用についても同様の利用を望む回答が多くなっており、「城北川および城北川遊歩道の将来像」についてたずねた問6では、【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】が45.5%、【景観が美しい川】が41.7%と回答が多くなっていった。

「城北川沿いで開催するイベントに望む内容」についてたずねた問7でも、【ウォークラリーなど、健康づくりにつながるもの】が51.6%で最も多い。次いで、【川沿いの喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景観を楽しみながらくつろげるもの】が27.2%で続いており、川辺の景観を楽しむための機会を創出することも求められている。

- ・ウォーキングラリーなど、広範な区民が参加するイベントを開催し、区民の健康づくりの場としての城北川をアピールする
- ・遊歩道の植栽や清掃活動の充実などにより遊歩道の魅力をアップし、散歩・散策やジョギングをする人がより快適に楽しめる城北川としていく
- ・春や秋の過ごしやすい季節に、お茶を飲みながら、川辺の景観を楽しめるコーナーを設ける

男性は自然、女性はまちの中のアメニティ空間としての利用を望む

「城北川および城北川遊歩道の将来像」についてたずねた問6で、男性の回答が女性よりも多かったものとしては、【自然に近い川】(男性43.3%、女性33.9%)【多様な動植物が生息・生育する川】(同38.1%、同28.1%)【釣りが楽しめる川】(同21.6%、同14.0%)があった。

「城北川沿いで開催するイベントに望む内容」についてたずねた問7でも、【「城北川魚類生息状況調査」のような環境学習につながるもの】で、男性26.1%、女性19.9%と男性の回答が多かった。

「城北川魚類生息状況調査」の調査結果についてたずねた問5では、【外来魚の駆除に取り組むべきだと思った】(男性30.6%、女性19.3%)【魚類が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った】(同13.4%、同6.4%)【水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った】(同11.2%、同6.4%)となっており、現状の城北川の環境に満足せずにより良い河川環境となることを望み、そうした取組みに参加したいとする回答が男性で多くなっている。

「イベントへの参加の仕方」をたずねた問10では、【自然・生物に関する調査・研究に参加する】で男性18.7%、女性2.9%となっており、やはり城北川の自然環境に関する取組みへの関心が高くなっている。

一方、問6で、女性の回答が男性よりも多かったものとしては、【散歩やジョギングなど、健康づくりができる川】(女性 50.3%、男性 38.8%)【景観が美しい川】(同 46.8%、同 35.8%)【洪水のない川】(同 22.8%、同 12.7%)があった。男性に比べると、自然の川らしさを求めるといよりも、まちの中のアメニティ空間としての利用を想定した回答が多くなっている。

問7では、【フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの】(女性 19.9%、男性 14.2%)【地元の子どもたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント】(同 9.9%、同 6.7%)で若干、男性よりも回答が多くなっていた。

「活動に参加・協力する際に重視すること」についてたずねた問11では、【子どもや家族、友人と一緒に参加できる】で女性 37.4%、男性 31.3%と女性の回答が多くなっていた。

- ・男性をターゲットとしたイベントとして、専門家を招いての環境に関するセミナー、水質検査の定期的な実施、植生・昆虫・野鳥等の定点観測、外来種駆除など城北川の環境改善の取組みなど、“城北川の自然環境”をキーワードとしたイベントを開催する。
- ・女性をターゲットとしたイベントとしては、区民まつりや文化の集いのような生涯学習の成果発表ができるイベントや多人数で参加できるイベントなどが望まれているものの、フリーマーケットや生活排水対策のような家庭・個人でできる環境への取組みを普及する取組みを行っていくことも考えられる。

20～40歳代の子育て世代は子どもや家族で楽しめることが条件

問11の「活動に参加・協力する際に重視すること」について、20～40歳代では、【子どもや家族、友人と一緒に参加できる】が50.7%と最も多くなっており、子育て中のファミリー層が多く、家族で参加できる内容を望んでいることがわかる。

その20～40歳は、問7の具体的なイベント内容について、【ウォークラリーなど、健康づくりにつながる】が46.4%で他の世代と同じく最も多くなっているものの、【「城北川魚類生息状況調査」のような環境学習につながるもの】【縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめる】が各27.5%、【フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの】23.2%と続き、他の世代と比べても数値が高くなっている。

「イベントへの参加の仕方」をたずねた問10では、【フェスティバル当日にイベントを楽しむ】が72.5%と圧倒的に多かったものの、【自然・生物に関する調査・研究に参加する】が14.5%で、他の世代(41～60歳が9.7%、61歳以上が7.2%)よりも高く、今回の「城北川魚類生息状況調査」のような城北川の環境を調査・研究する取組みに対して関心が高いことがわかる。

「城北川のイメージ」をたずねた問3で【昔も今も汚い川・臭い川】が36.2%で最も回答が多く、「城北川魚類生息状況調査の結果」についてたずねた問5では、【水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った】および【魚類が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った】が各11.6%と、他の世代よりも回答が多かった。昭和期の汚染が進んでいた城北川を知らない世代が多いと思われる20～40歳は、現在の城北川の環境に対して厳しい見方をしていることがわかる。

・20～40歳の参加を得るには、ウォークラリーなどとともに縁日や屋台などのお祭りの雰囲気を楽しめる、親子や家族で参加できるイベントを開催することが望まれる。また、夏休みなどに、親子で環境問題に取り組めるイベントを開催することも考えられる。

41～60歳、61歳以上では、清掃や植栽の世話などの活動への参加意欲が高くなる

41～60歳については、問11の「活動に参加・協力する際に重視すること」について、【水質向上やゴミ捨てごみの減少など、城北川の環境改善のために効果的である】が44.2%（20～40歳が30.4%、61歳以上は30.4%）、【自分にとって役立つ知識や教養が身につく】が11.5%（20～40歳が5.8%、61歳以上が7.2%）で他の世代よりも回答が多く、【子どもや家族、友人と一緒に参加できる】が29.2%（20～40歳が50.7%、61歳以上が31.2%）、【遊びながら、楽しくできる】は21.2%（20～40歳が26.1%、61歳以上が25.6%）、他の世代よりも回答が少なくなっていた。子育てから開放され、「家族」や「遊び・楽しさ」より、社会的な意義や自分自身の教養を高めることができるかどうかを重視する傾向が出ている。

61歳以上については、問11で、【地域の活性化やまちづくりに役立つ】が29.6%（20～40歳が14.5%、41～60歳で23.0%）で、他の世代よりも回答が多く、余暇時間が増え、地域づくりへの関心が高まっていることがわかる。

「イベントへの参加の仕方」をたずねた問10では、【城北川遊歩道の清掃活動に参加する（現在、愛護会活動に参加している）】（20～40歳が11.6%、41～60歳が24.8%、61歳以上が27.2%）および【城北川沿いの植栽の世話（花壇づくり、日々の水やり等）に参加する】（20～40歳が7.2%、41～60歳が17.7%、61歳以上が21.6%）と、41～60歳、61歳以上の回答が20～40歳と比べると多くかった。また、【城北川の歴史や文化を広く伝える活動に参加する】が41～60歳で8.8%、【歴史や文化に関する調査・研究に参加する】が61歳以上で12.0%と他の世代よりも高くなっており、日常的な城北川の管理や歴史や文化を広める活動について、41～60歳、61歳以上の方の協力を得ることができると思われる。

・41～60歳については、水質向上や環境改善に加えて、知識や教養を身につけられるような活動に取り組む。
・41～60歳、61歳以上は、清掃や植栽の世話などへの参加意向が高く、城北川遊歩道の清掃活動に加えて、遊歩道沿いの花壇づくりなどを住民参加型で行うことが望まれる。
・古くから城北川沿いに暮らしている人の城北川に関する思い出などを、「城北川の歴史・文化」としてまとめ、子どもたちの総合学習や新しく地域に引っ越してくる人に地域を紹介する資料として活用する。また、資料を使ったボランティアガイド等の活動も考えられる。

開催頻度は年に2～3回程度まで、時間帯は対象によって変えていく必要がある。

問8の「城北川沿いのイベントで重視すること」については、最優先されるのは【清掃などの開催後の処理】（62.2%）で、次いで、【開催時の事故対策】（39.1%）、【開催するイベントの内容】（26.9%）だった。開催頻度や日時よりも、清掃や事故対策にしっかりと取り組むことを前提に、イベント自体の内

容を向上させることが望まれている。

問9をみると、開催頻度については、【年に2～3回程度まで】が43.6%で最も多く、次いで【全く気にしない】が24.4%となっていた。年齢別に見ると、20～40歳で【全く気にしない】(37.7%)、41～60歳では【年に2～3回程度まで】(52.2%)が他の世代と比べると多く、61歳以上では【年に2～3回程度まで】が37.6%で最も多いものの、【全く気にしない】(25.6%)と【年に1回程度】(21.6%)がほぼ同数になるなど、意見が分かれている。基本的には、春や秋などの過ごしやすい季節や夏休みなどの親子・家族で参加しやすい時期を選びながら、年に2～3回程度まででイベント開催していくことが考えられる。

時間帯については、性別で見ると、男性は【休日】(男性32.1%、女性20.5%)、女性は【夜間】(女性29.2%、14.9%)や【平日】(女性33.3%、男性26.1%)で回答が多く、また【全く気にしない】という意見も男性で多くなっていた。年齢別に見ると、20～40歳で【全く気にしない】が31.9%と、41～60歳の12.4%、61歳以上の18.4%と比べると、回答が多くなった。また、41～60歳では、【年1回程度であれば夜に開催しても構わない】が30.1%で、20～40歳の23.2%、61歳以上の16.8%と比べると回答が多くなった。

比較的平日の昼間でも地域にすることが多い61歳以上を対象としたイベントについては、昼間での開催、41～60歳の世代を対象としたイベントについては、夜間に開催するなど、対象の年齢層にあわせた時間帯が考えられる。

騒音についての許容範囲については、【生演奏する楽器の音や歌声が聞こえる状態】が36.9%と最も多く、【楽器の音や歌声が音響設備を通して聞こえる】が26.0%と続いており、音楽等が聞こえてくることについては、問題視する意見は少なかった。

全体的なイベントイメージ

- ・城北川沿いを歩くウォークラリーを開催し、城北川沿いを実際に歩いてもらい、環境改善された川の良さや景観の良さをしってもらう。
- ・ウォークラリーのゴール地点で、フリーマーケットや屋台などの飲食コーナー、環境展示等のブースを設け、近くの城北川で、生き物調査や水質調査等のワークショップ・フィールドワークを実施する。飲食については、地域の人たちがふれあえるような喫茶コーナーとして「リバーカフェ」を設けることも考えられる。
- ・20～40歳については、親子で参加できるメニューを充実させ、中高年層には、歴史文化や環境の学習ができるような展示を行う。城北川に生息する魚類を紹介する水槽の展示を、城北川沿いで行うなど、実際に生き物を目にする機会を設ける。将来的には、城北川の歴史文化や環境を紹介するガイドボランティアを養成する。
- ・音楽については、合唱や生演奏程度の音量にし、開催日時としては、子どもや男性の参加を考えると休日に設定することが望ましい。

(資料)

アンケート依頼文

アンケート調査票

アンケート資料

「城北川区民意識アンケート調査」 調査のお願い

平素は何かと区政にご協力をたまわり、まことにありがとうございます。

城東区は、城北川・寝屋川・第2寝屋川・平野川・平野川分水路の5つの河川が区域東西南北を流れており、昔から河川の移り変わりとともに歩んできた歴史を持つまちです。

その中でも城北川は、昭和62年に建設省より「ふるさとの川モデル河川」の指定を受け、「滝の広場」「水の彫刻の広場」「リバーサイドテラス」などが設置されるなど、遊歩道が整備され、潤いのある空間となっています。

現在、城東区役所では、誰もが、いつでも、安全に、気持ちよく利用できる城北川づくりをすすめ、平成18年2月に策定した「城東区長改革マニフェスト」でも示しているように、城北川を区内の貴重なアメニティ資源として、まちづくりに活用し、「城東区の誇れるランドマーク」として位置づけていくための「城北川アピールプロジェクト」に取り組んでおります。

「城北川アピールプロジェクト」では、平成18年からの3年をかけて事業に取り組み、区民と区役所とが協働して「ランドマークは城北川」という情報発信ができるような区民フェスティバルを桜の咲く時期に開催できればと考えております。その取り組みの第一弾として、本年10月7日に「城北川魚類生息状況調査」を実施し、城北川の環境について現状把握を行いました。

本アンケート調査は、「城北川アピールプロジェクト」の取り組みとして実施し、城北川沿いにお住まいの方に、城北川にどのようなことを求めているのかをお聞きし、今後の城北川に関わる施策を進めていくうえでの貴重な資料にしていきたいと考えております。

ご多忙とは存じますが、上記の趣旨をご理解のうえ、本アンケート調査にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

なお、この調査票は、城東区内の城北川沿いにお住まいの方の中から、無作為に選んでお送りさせていただいております。

平成19年 1月
城東区役所区民企画室

< 回答についてのお願い >

- お答えはご本人かその代理の方をお願い致します。
- ご回答は、2月5日(月)までに、同封の返信用封筒にアンケート記入用紙を入れ、お近くのポストに投函してください(切手は必要ありません)。

この調査はお名前を書いていただく必要はありません。

また、記入された内容が外部にもれたり、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは絶対にありませんので、日頃のお考えをそのままお聞かせください。

なお、プライバシー保護のために、返信用封筒は必ず糊付けして提出してくださる様、お願い致します。

本調査や質問内容についてのお問い合わせ：

TEL：6930-9041（城東区役所 区民企画室 企画振興担当 まで）

城東区「城北川区民意識アンケート調査」記入票

以下の設問について、ご回答ください（選択肢の数字に をつけてください）。

<城北川の利用頻度>

問1 城北川は、昭和62年に「ふるさとの川モデル河川」の指定を受け、遊歩道の整備や子どもたちが安全に楽しく遊べる空間づくりを行ってきました。

あなたはこの城北川沿いにどの程度訪れますか。最も近いものを1つ選んでください。

- | | |
|---------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に1、2回程度 |
| 3. 月に1、2回程度 | 4. 年に数回程度 |
| 5. 全く訪れたことがない | |

<城北川および城北川遊歩道の利用目的>

問2 あなたは、どのようなことを目的に城北川を訪れていますか。最も近いものを2つまで選んでください。

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 遊歩道の散歩や散策を楽しむ | 2. ジョギングなど健康づくりに行く |
| 3. 水辺の景色を楽しむ | 4. 自然観察に行く |
| 5. レジャーに利用する | 6. 通勤・通学路として利用する |
| 7. 遊歩道の清掃などを行う | 8. その他（ ） |

<城北川のイメージ>

問3 あなたは、城北川についてどのように感じていますか。以下のイメージについて、当てはまるものを2つまで選んでください。

1. 昔も今も汚い川・臭い川
2. 汚い川だったが、最近は水質が良くなってきている川
3. 魚の多く棲む川
4. 身近にある・近づきやすい川
5. 危ない川・行ってはいけない川
6. 遊歩道が整備された、景観の良い川
7. 愛着がある・大事にしたい川
8. その他（ ）

<「城北川魚類生息状況調査」の認知度>

問4 城東区では、「城東区の誇れるランドマーク（目標物）づくり」をテーマに、城北川を活用したまちづくりについて検討しています。今年の10月7日（土）には、城北川をアピールする取組みとして「城北川魚類生息状況調査」を近隣6連合町会および小学校の協力で実施しました（別紙「参考資料」参照）。この取組みについて、ご存知でしたか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. 調査を実施することも、調査結果も知っていた
2. 調査を実施したことは知っていたが、結果は知らなかった
3. 調査結果は、見聞きしたことがある
4. 調査を実施したことも結果も知らなかった



<「城北川魚類生息状況調査」の結果について>

問5 「城北川魚類生息状況調査」の調査結果(別紙参照)について、どのように感じましたか。当てはまるものを2つまで選んでください。

1. 水質が良くなっており、うれしく思った
2. 思っていたよりも魚種が多く、都会の中で自然と共生する川であることに感動した
3. 水質が悪かったので、水質浄化の取組みに参加したいと思った
4. 魚種が少なかったので、稚魚の放流などの取組みをしたいと思った
5. 外来魚の駆除に取組むべきだと思った
6. その他()

<城北川・城北側遊歩道に望む将来像>

問6 あなたは城北川および城北川遊歩道の将来像について、どのような姿を望みますか。

3つまで選んでください。

1. 自然に近い川
2. 多様な動植物が生息・生育する川
3. 野鳥の観察や水辺の生き物とふれあうことができる川
4. 景観が美しい川
5. ベンチやトイレ等が設けられた、くつろげる川
6. 散歩やジョギングなど、健康づくりができる川
7. 子どもの安全のため、水辺に近づけなくした川
8. 洪水のない川
9. 釣りが楽しめる川
10. ボート遊びや河原での遊びができる川
11. 区外からも観光客が訪れる川
12. イベントやレクリエーションが活発に行われる川
13. その他()

<城北川沿いのイベントについて>

問7 城東区では、将来的に城北川沿いで区民の皆様が参加できるようなイベント(フェスティバル的なもの)を開催したいと考えています。城北川沿いのイベントについて、どのような内容を望まれますか。2つまで選んでください。

1. ウォークラリーなど、健康づくりにつながるもの
2. 川沿いに喫茶コーナーを設けるなど、水辺の景色を楽しみながらくつろげるもの
3. 城北川の歴史や環境の展示を行うなど、城北川をアピールするもの
4. 「城北川魚類生息状況調査」のような、環境学習につながるもの
5. 高齢者が子どもたちに昔の遊びを教えるような子ども向けのコーナー
6. フリーマーケットなど、リサイクル・リユースの取組みを広めるもの
7. 地元の子もたちやサークル等が、音楽やダンス等を披露するアートイベント
8. 縁日や屋台など、お祭りの雰囲気を楽しめるもの
9. タレント・有名人が参加する集客力の強いイベント
10. その他()

< イベントの許容範囲について >

問8 城北川沿いに暮らす住民として、城北川沿いでイベントが開催される場合、どのようなことに注意してほしいと思いますか。最も重視することを2つまで選んでください。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 開催する時期や日数 | 2. 開催する期間 |
| 3. 開催する時間帯 | 4. 開催時の音の大きさ |
| 5. 開催時の事故対策 | 6. 清掃など、開催後の処理 |
| 7. 開催するイベントの内容 | 8. その他 () |

< イベントの居住環境への影響について >

問9 城北川沿いでイベントが開催される場合の居住環境への影響について、どの程度まで許容できますか。以下のそれぞれの条件について、あなたが許せる範囲に一番近いものを1つ選んでください。

【開催頻度について】

1. 全く気にしない
2. 1～2ヶ月に1回程度まで
3. 年に2～3回程度まで
4. 年に1回程度

【時間帯について】

1. 全く気にしない
2. 休日であれば時間帯は気にしない
3. 基本的には、昼間の開催しかダメだが、年に1回程度であれば夜に開催しても構わない
4. 昼間の開催であれば構わない

【騒音について】 「年に1回程度」として考えてください。

1. 楽器の音や歌声が、音響設備を通して流れてくる状態
2. 現場で生演奏する楽器の音や歌声が聞こえる状態
3. 司会者の呼びかけがマイク越しに聞こえる状態
4. 参加者の歓声が聞こえる状態

< イベントへの参加意向 >

問10 城北川沿いのイベントにあなたが参加するとすれば、どのような参加の仕方が可能ですか。2つまで選んでください。

1. フェスティバルの企画や運営に参加する（フェスティバル実行委員会の委員として参加する）
2. 城北川遊歩道の清掃活動に参加する（現在、愛護会活動で清掃活動に参加している）
3. 城北川の自然・生物に関する調査・研究に参加する
4. 城北川沿いの植栽の世話（花壇づくり、日々の水遣り等）に参加する
5. 城北川の歴史や文化に関する調査・研究に参加する
6. 城北川の歴史や文化を広く伝える活動（ボランティアガイド等）に参加する
7. フェスティバル当日にイベントを楽しむ
8. 関心がない・参加したくない
9. その他 ()

<参加するときに重視すること>

問11 もし、あなたが城北川での活動に参加・協力する場合、どのようなことを重視しますか。

2つまで選んでください。

- 1．遊びながら、楽しくできる
- 2．子どもや家族、友人と一緒に参加できる
- 3．自分にとって役立つ知識や教養が身につく
- 4．城東区内外を問わず、多くの人々が参加する
- 5．水質の向上やポイ捨てごみの減少など、城北川の環境改善のために効果的である
- 6．地域の活性化やまちづくりに役立つ
- 7．近所や行きやすい場所、時間帯で行われる
- 8．新しい人や団体と交流できる
- 9．その他()

<「城東区長改革マニフェスト」の認知度>

問12 城東区役所では、区政改革に取り組むべく平成18年2月に「城東区長改革マニフェスト」を策定しました。

「城東区長改革マニフェスト」については、区広報「ふれあい城東」5月号や区のホームページに掲載をしています。この「城東区長改革マニフェスト」について、当てはまるものを1つ選んでください。

- 1．内容を知っていたし、家族や知人と内容について話し合ったことがある
- 2．「ふれあい城東」やホームページを見て、内容は知っていた
- 3．名前を聞いたことはあるが、内容は知らない
- 4．全く知らなかった

<属性問題>

最後に、回答者ご自身についてお聞きします。当てはまる数字に をつけてください。

・あなたの性別は

- | | |
|------|------|
| 1．男性 | 2．女性 |
|------|------|

・あなたの年齢は

- | | | |
|----------|----------|---------|
| 1．20～40歳 | 2．41～60歳 | 3．61歳以上 |
|----------|----------|---------|

・城東区に住むようになって何年になりますか。

- | | |
|-------------|------------|
| 1．1年未満 | 2．1年以上5年未満 |
| 3．5年以上20年未満 | 4．20年以上 |

自由回答欄 本アンケートに関わるご意見がございましたら、ご記入ください。

アンケートに回答いただき、ありがとうございました。
ご記入済みの調査票を返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。

(別紙)

参考資料 「城北川魚類生息調査」実施結果

<実施概要>

1. 実施日時 平成18年10月7日(土)午後1時30分～午後4時00分
2. 実施場所 城北川東側護岸の今福大橋付近から南今福橋周辺
事前学習会会場：鯰江東小学校 多目的室
3. 実施内容 城北川近隣の小学生約30名を対象に、河川に生息する魚の種類と水質の関係を学ぶ事前学習会を開催した後、城北川護岸から業者の投網と手製の「もんどり」により捕獲した魚類を調査・観察し、あわせて小学生が自らの手で水質調査も実施しました。
4. 参加人数 約100名(見物人を除く)

<水質状況>

今回の水質の計測結果を表1、表2に示します。

- ・塩分 - 表層、底層ともに塩分が検出されませんでした。おそらく海からの影響がほとんどない淡水域であると思われます。
- ・pH - 「水産用水基準」において設定されている6.5～7.5の範囲内の値であり、標準的な値であると評価されます。
- ・DO(溶存酸素) - 「水産用水基準」では6mg/L以上を好適な水生生物の生息条件として設定しており、今回はこの基準には若干満たない値となっています。しかし「生活環境の保全に関する環境基準」では5mg/L以上をサケ科魚類、アユ、コイ、フナなどの魚類の生息可能な条件として設定しており、今回はこの基準を満たしています。よって現在の城北川は多くの種類の魚類が生息可能な水質のボーダー付近であると推測されます。

つぎに城北川のDOを大阪市の他河川の結果(淡水域のみ)と比較してみます(図1)。城北川は、淀川や大川よりは低い値となっていますが、寝屋川や道頓堀川よりは高い値を示しています。城北川は市内を流れる河川の中では一定基準以上の水質を保った、比較的良好な水質の河川であると評価できます。

- ・COD(有機物)パックテスト - パックテストは簡易水質検査用であるため正確な値は不明ですが、5回の計測値はいずれも5～10mg/Lの範囲内であったことから、実際にも5～10mg/L付近であると思われます。比較的汚濁に強いコイ・フナがすめる目安とされている5mg/L以下の値を上回っている可能性があります。

表1 水質測定結果

河川名	観測日	観測時間	水深 (m)	水色	臭気	水温 ()	塩分	pH	DO (mg/L)・飽和度 (%)	
城北川 (鯉江東小学校付近)	2006年 10月7日	13:00~	3.3	dark yellowish green	無	表層	23.0	0.11	7.32	5.28 (63.6%)
		底層				22.6	0.10	7.22	4.74 (54.5%)	

注) 底層は川底から上方1mで測定

表2 CODパケットテストの結果

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
値 (mg/L)	8	7.5	7.5	7	8

5回の平均値 = (7.6 mg/L)

注) パケットテストは簡易水質検査用であるため、公的な報告に使える精度では計測できないとされています。値はあくまでも誤差を含んだものです。

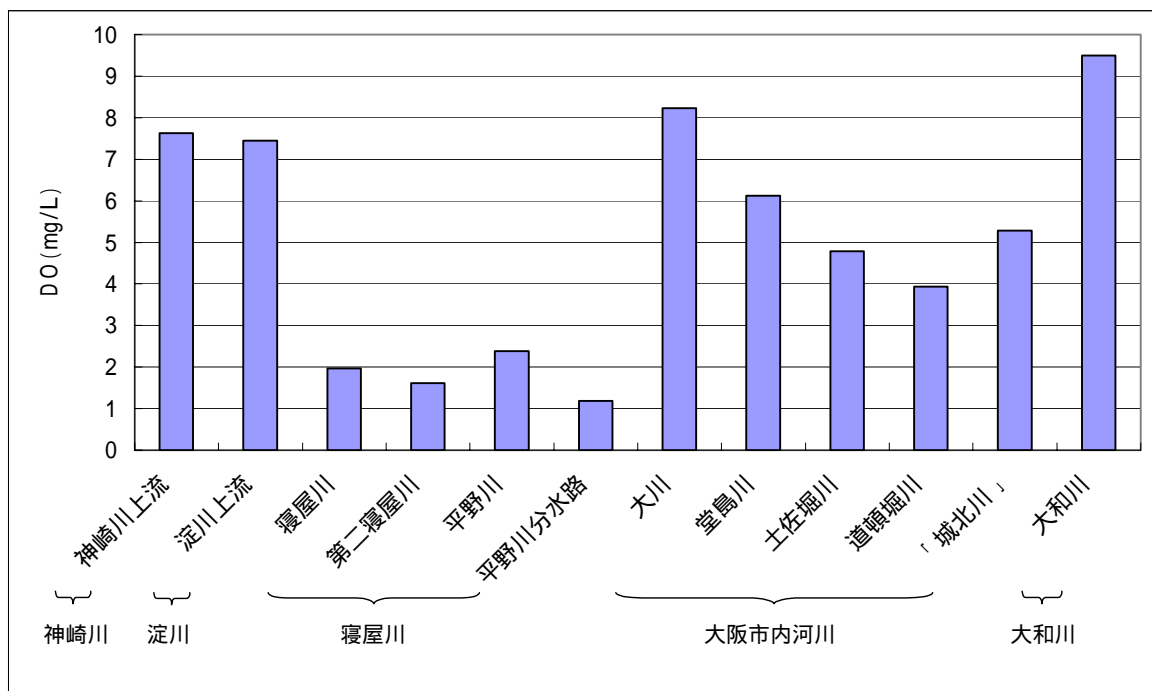


図1 DOの比較

注) 観測日 城北川：2006年10月7日
その他の河川：2006年8月11～18日

< 魚類の生息状況 >

今回、城北川では合計7種類の魚類が確認されました(表3)。これらは一般に、河川の中流域から下流域に生息する種類です。

この結果を同様の調査方法で夏季におこなった、大阪市の他河川の結果(淡水域のみ)と比較してみます(図2)。城北川の7種という結果は、大和川(14種)、神崎川上流(9種)、大川(8種)に次いで多い種数であり、比較的多様な魚類が生息している河川であると評価することができます。

大阪市は海と隣接しているために、海を主な生息場とする「汽水海水魚」が確認される河川が多いのに対し、城北川では汽水海水魚が見られず、確認された7種はいずれも「純淡水魚」であることは一つの特徴です。これは城北川はほとんど海水の影響を受けない淡水域であること、また城北川の下流側には水門があるためにボラやマハゼなどの汽水海水魚が進入しにくいことが要因であると推測されます。

今回、きれいな水質の指標種であるコウライモロコ、ハスが確認されました。この2種は大阪市内の河川では、BODが3mg/L以下の比較的きれいな水質の河川に限ってみられる傾向がある種類です。今回コウライモロコは6個体、ハスは9個体が採集されたことから、これらの2種が城北川に比較的安定して生息していると推測されます。市内の他の河川で夏季にコウライモロコが確認された地点は大川と道頓堀川の2河川であり、ハスが確認された地点は大川だけであったことから、今回両種が確認された城北川は、これらの指標種を用いた評価においても、市内を流れる河川の中では比較的良好な水質の河川であると評価されます。

外来魚としてはブルーギルの1種が確認されました。ブルーギルは6個体が採集されたことから、城北川に比較的多く生息していると考えられます。また体長2cmほどの稚魚も確認されたことから、付近で繁殖している可能性があります。その他の外来魚としては、緩やかな流れを好むブラックバスが生息している可能性がありますが、幸い、全くいないか生息数が少ないと思われます。

城北川は水の流れが無く、また両岸はコンクリートで護岸されて岸際に抽水植物*1が無いなど、環境的には単調であると言えますが、水質が比較的良好な状態であるために、割合に多くの魚類が生息域として利用しているといえます。

* 1 抽水植物・・・根から茎下部は水中に漬かり、茎上部や葉は地上にある植物のこと。代表的な種類にヨシやガマなどがあります。

表3 城北川魚類調査結果

調査日：2006年10月7日

No.	目	科	種(和名)	生活型 ^{*3}	種(学名)	個体数
1	コイ	コイ	フナ属 ^{*1}	純淡水魚	<i>Carassius</i> sp.	1
2			ハス	純淡水魚	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>	9
3			オイカワ	純淡水魚	<i>Zacco platypus</i>	7
4			モツゴ	純淡水魚	<i>Pseudorasbora parva</i>	6
5			ニゴイ属 ^{*2}	純淡水魚	<i>Hemibarbus</i> sp.	1
6			コウライモロコ	純淡水魚	<i>Squalidus chankaensis</i> subsp.	6
7	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	純淡水魚	<i>Lepomis macrochirus</i>	6

*1 ギンブナもしくはゲンゴロブナと思われるが、外見での区別は困難。

*2 ニゴイもしくはコウライニゴイと思われるが、小型個体は区別が困難。

*3 生活型の区分は、純淡水魚、汽水海水魚、回遊魚とする。城北川では汽水海水魚、回遊魚は確認されなかった。

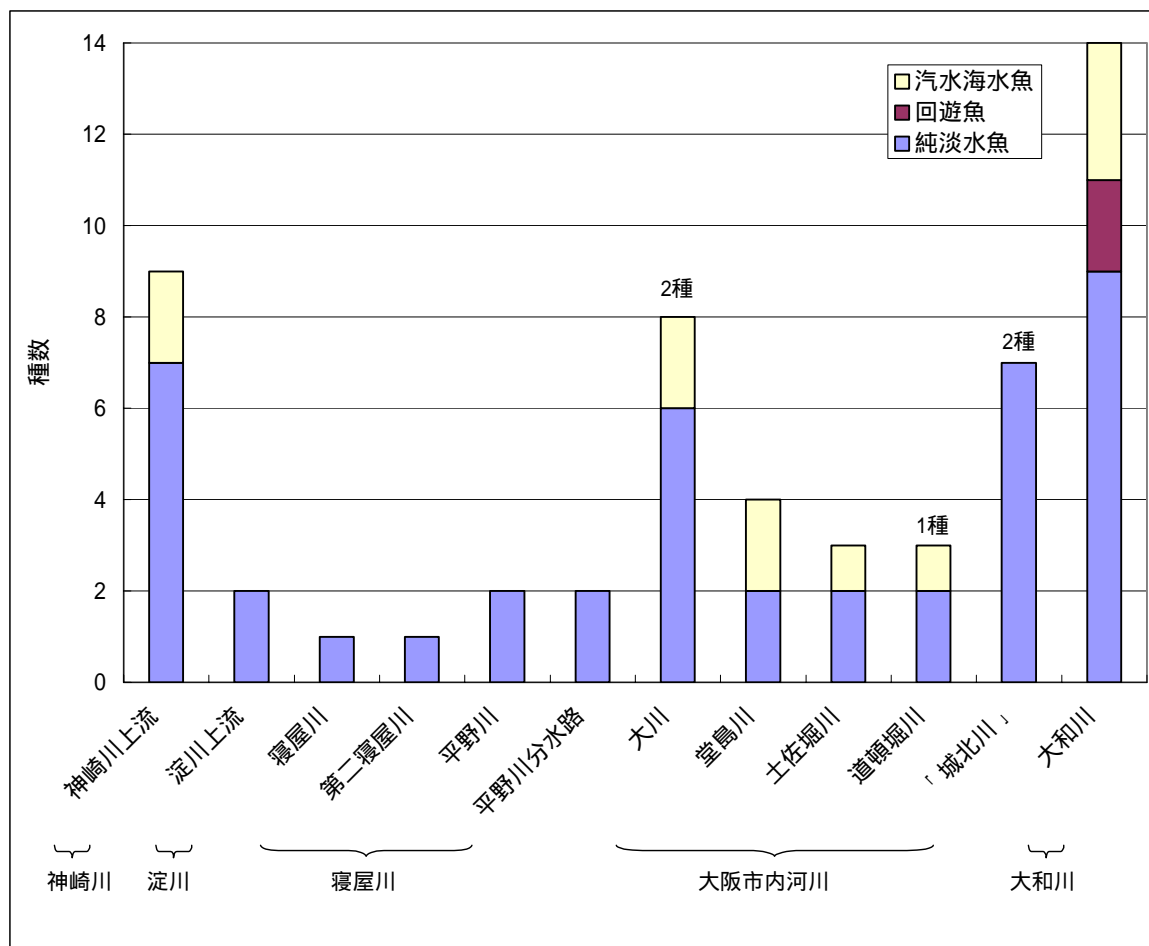


図2 種数の比較

注)・調査日 城北川：2006年10月7日
 その他の河川：2006年8月11～18日
 ・棒グラフ上端の数字は、「きれいな水質の指標種」の出現種数を示す。

解説) 汽水海水魚・・・基本的には海だけで生活を完結できるが、一時的に川にも入ってくる魚(ボラ、マハゼなど)
 回遊魚・・・生息のためには海と川のどちらも必要で、海と川を行き来する魚(アユ、ウナギなど)
 純淡水魚・・・生まれてから死ぬまで、川で一を送る魚(オイカワ、フナなど)